京都市内遺跡分布調査報告

平成17年度

2006年3月

京 都 市 文 化 市 民 局

ご あ い さ つ

京都市は，７９４年の平安京の建都以来，日本独自の華麗で繊細な文化を育て，今も文化的創造力を失わない都市であり，世界に誇る数多くの文化遺産に恵まれた歴史都市であります。市内には多くの埋蔵文化財包蔵地があり，古代から近世までの時代ごとに積み重なった遺跡は，わが国の歴史や文化を教えてくれる国民共有の貴重な財産であり，将来にわたって日本文化を発信していくうえでその基礎を成すものです。

一方，都市機能を維持し，市民生活を向上させるために不可欠である開発行為は増加傾向にあり，埋蔵文化財の保護に重大な影響を与えかねない状況にあります。本市では，現代に生きる私たちの生活の向上を図りつつ，先人が残してくれた貴重な埋蔵文化財を後世に伝える責務があると考え，「保存」と「開発」の調和を図る中で，埋蔵文化財の保護に取り組んでおります。

この度，平成１７年度に本市が文化庁の国庫補助を得て実施した埋蔵文化財調査結果の報告書を作成致しました。試掘調査は京都市埋蔵文化財調査センターが実施し，発掘調査，立会調査及び分布調査は財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施したものです。

各調査の実施に当たり，御理解，御協力を賜りました市民の皆様と御指導，御助言を賜りました関係機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに，本報告書が京都の歴史と文化財に対する理解を深めるためにお役に立てば幸いに存じます。

平成１８年３月

文化市民局長　　柴　田　重　徳

例　言

1　本書は、京都市文化市民局が財団法人京都市埋蔵文化財研究所に委託して実施した文化庁国庫補助事業による平成17年度の京都市内遺跡分布調査報告である。

2　調査地は、下記のとおりである。

　Ⅰ　右京区京北の遺跡分布調査　　京都市右京区京北地先

　Ⅱ　左京区大原の遺跡分布調査　　京都市左京区大原

3　本書の執筆分担は下記のとおりである。

　Ⅰ　加納敬二・津々池惣一

　Ⅱ　山本雅和

4　本書に使用した写真の撮影は、現場写真は担当者、遺物写真は村井伸也・幸明綾子が行った。図版1-2の写真は田中一三氏より提供を受けた。

5　遺跡番号は京都府教育委員会作成「京都府遺跡地図［第３版］第２分冊　2002年」の番号に準拠した。

6　本書で使用した地図は、国土地理院発行の「四ツ谷」「北小松」「京都西北部」「京都東北部」（縮尺１：50,000）、京都府作成の「京都府管内図」（縮尺１：150,000）、旧京北町作成「京北町整備基本図」（縮尺１：2,500）、京都市発行の都市計画基本図「金毘羅山」「大原」「井出」「花尻」（縮尺１：2,500）である。

7　表３～５の緯度・経度は、新世界測地系の数値を使用した。また、標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。

8　Ⅰの新資料は、地点番号の前にKを付した。

9　調査にあたっては、以下の機関や方々からご教示とご協力を得た。（敬称略、順不同）
旧京北町教育委員会、人魯　亨、廣畑忠男、山村安郎、津原　勇、安井益三、田中　誠、田中　隆、田中一三、藤中芳博、塔下　守

10　本書の編集は、前田義明・柏田有香・児玉光世が行った。

本 文 目 次

I　右京区京北の遺跡分布調査

1．調査の経過と方法 …… 1
（1）調査の経過 …… 1
（2）調査の方法 …… 1
2．立地と遺跡 …… 2
（1）位置と地形 …… 2
（2）遺跡の概要 …… 2
3．遺跡確認・分布調査 …… 4
（1）上桂川流域 …… 5
（2）弓削川流域 …… 10
（3）大堰川流域 …… 15
4．道路建設予定地の分布調査 …… 19
5．遺　物 …… 21
6．ま と め …… 21
（1）遺跡の確認・分布調査 …… 21
（2）道路建設予定地の調査 …… 23

II　左京区大原の遺跡分布調査

1．調査経過 …… 44
2．分布調査 …… 45
3．遺　物 …… 47
4．ま と め …… 48

図 版 目 次

図版1　右京区京北の遺跡分布調査　1　調査地遠景（栗尾峠から北を望む）
2　桂川流域遠景（北東から）
図版2　右京区京北の遺跡分布調査　1　上桂川流域全景（北から）
2　K1　芹生墓域（東から）
3　K2　源蔵屋敷跡（西から）
4　K3　芹生分教場跡（南から）

	5	K4	灰屋石仏
図版3　右京区京北の遺跡分布調査	1	K5	吉野橋北石仏集積地
	2	K6	中江石仏集積地
	3	K7	廃村八丁
	4	K8	卒塔婆峠石仏
	5	K9	祖父谷峠石塔
	6	K10	石仏峠石仏
	7	K11	茶呑峠石仏
	8	K12	鳴ノ堂跡
図版4　右京区京北の遺跡分布調査	1	K13	茶屋跡
	2	K14	細川頓之屋敷
	3	弓削川流域全景（東から）	
	4	K15	深見峠石仏
	5	K16	荒倉寺跡
図版5　右京区京北の遺跡分布調査	1	K17	赤石奥窯跡
	2	K18	朝日寺跡
	3	K19	中道寺墓地
	4	K20	井崎祠
	5	K21	あやめ塚
	6	K22	矢谷奥墓域
	7	K23	矢谷奥御堂跡
	8	K24	矢谷上橋北墓域
図版6　右京区京北の遺跡分布調査	1	K25	筒江墓域
	2	K26	岩ヶ鼻墓域
	3	K27	五本松塚
	4	K27	五本松塚（遠景）
	5	大堰川流域全景（西から）	
図版7　右京区京北の遺跡分布調査	1	K28	人尾峠石仏
	2	K29	細野城推定地（御殿山）
	3	K29	細野城推定地（ダイラ）
	4	K30	小栗尾峠石造物
	5	K31	大栗尾峠御堂
	6	K32	首無地蔵峠石仏
	7	K33	田尻廃村
	8	K34	細野墓域

図版8　左京区大原の遺跡分布調査　1　大原北部全景（南西から）
2　大原南部全景（北東から）
3　遺物

挿　図　目　次

図1　調査地遠景 …… 1
図2　調査風景 …… 1
図3　調査位置図（1：150,000） …… 3
図4　上桂川流域新資料位置図1（1：5,000） …… 7
図5　上桂川流域新資料位置図2（1：5,000） …… 8
図6　上桂川流域新資料位置図3（1：5,000） …… 9
図7　弓削川流域新資料位置図1（1：5,000） …… 12
図8　弓削川流域新資料位置図2（1：5,000） …… 13
図9　弓削川流域新資料位置図3（1：5,000） …… 14
図10　大堰川流域新資料位置図1（1：5,000） …… 17
図11　大堰川流域新資料位置図2（1：5,000） …… 18
図12　道路部分調査位置図（1：10,000） …… 20
図13　既存遺跡位置図1（1：2,000・1：10,000） …… 25
図14　既存遺跡位置図2（1：5,000） …… 26
図15　既存遺跡位置図3（1：5,000） …… 27
図16　遺跡分布図1（1：50,000） …… 28
図17　遺跡分布図2（1：50,000） …… 29
図18　遺跡分布図3（1：50,000） …… 30
図19　遺跡分布図4（1：50,000） …… 31
図20　調査位置図（1：50,000） …… 44
図21　調査地概要図（1：5,000） …… 46
図22　遺物実測図（1：4） …… 47

表 目 次

表1　新資料概要表 …… 4
表2　遺物概要表 …… 21
表3　既存遺跡調査表 …… 32
表4　京北分布調査表 …… 36
表5　道路部分調査表 …… 38
表6　右京区京北埋蔵文化財関係目録 …… 39
表7　採集遺物一覧表 …… 47

Ⅰ　右京区京北の遺跡分布調査

1．調査の経過と方法

（1）調査の経過

調査は、2005年４月１日に、京都府北桑田郡京北町と京都市が合併したことに伴い、 京都市が京北全域の既知遺跡の現状確認と、新規遺跡発見のための分布調査および道路新設・拡幅工事が計画されている予定地の遺跡分布調査の必要性を認め、実施することとなったものである。

調査は京都市から財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて2005年４月１日から2006年３月31日の期間で実施した。

京北地域での埋蔵文化財調査は1947年の周山廃寺の調査に始まるが、1970年・1996年に京都府教育委員会の指導で、旧京北町教育委員会により全域にわたり遺跡確認のための分布調査が行われ、遺跡台帳・カードが作成された。それらの資料を基に遺跡地図が作製されている。

それ以降、学校改築や圃場整備に伴い発掘調査、試掘調査が数例行われてきたが、遺跡の広がり、新たな遺跡の発見例は地域の広さからすればわずかで、1996年以前の分布調査で得られた全域の遺跡状況に、新たな知見を加えるにはいたらなかった。

そうした状況を踏まえ、今回の調査では既知遺跡の現状確認からはじめ、周辺への広がりと新たな遺跡の発見を主眼においた。

（2）調査の方法

調査では各遺跡の遺存状況の把握と新たな遺跡の確認を主目的に、また道路新設・拡幅予定地での分布調査も並行して行った。田地についてはすでに、ほぼ全域で圃場整備に伴う分布･試掘･発掘調査などが、京都府教育委員会の指導で京都府埋蔵文化財調査研究センターにより行われている。そのため今回の調査は圃場整備が及ばなかった田地を対象に行った。また地元の人たちへ

図１　調査地遠景

図２　調査風景

の聞き取りも行い、調査を補完した。

調査にあたっては、遺跡が河川の細長い流域で広域にわたり点在することから、３人１組で２班に分かれ、各遺跡の現状観察・遺物散布状況・位置などの記録作業と現状の写真撮影を行った。

記録作業は１：2,500地形図（旧京北町作製）に各遺跡の位置・現状を記入し、位置についてはＧＰＳ（全地球測位システム）により測定した。遺物の採取地点も同様の方法で行った。新たに確認した遺跡についてもＧＰＳにより測定し、さらにその範囲や規模をエスロンテープ（巻き尺）とスタッフ（標尺）を用いての簡易測量を実施した。それらの成果を基に新たな遺跡カードを作成し、京都府の遺跡台帳に補足および追加を行った。

２．立地と遺跡

（１）位置と地形

調査地である右京区京北地域は京都市街地から北西方向にあり、丹波高原内に位置する。東西17.7km、南北21.7kmで、南北に長い扇状をしていて、京都府のほぼ中央部に位置している。周囲を標高1,000ｍ未満の山々に囲まれ、平均標高200～600ｍ、総面積約218㎢で、93％が山林である。

当地の河川については、国土地理院発行地図（縮尺１：50,000）では、「桂川」とその支流名が記されている。本報告では、便宜上「桂川」以外に支流名および通称名も使用することとする。

当地域の河川は、桂川支流の弓削川（以降、「弓削川」とする。）が町の西部を南流し、東部は通称、上桂川（以降、「上桂川」とする。）が南西に流れて、周山付近で合流し通称、大堰川（以降、「大堰川」とする。支流細野川を含む。）として西流する。各流域には細長い平地部が形成されている。国道162号線（周山街道）が弓削川に沿うように北上し、東西に府道が分岐する。東は京都市左京区、西は京都府船井郡旧八木町・旧日吉町、北は京都府北桑田郡旧美山町、南は京都市右京区に接する。この範囲は古代の行政区分では丹波国桑田郡に属している。遺跡は上桂川と弓削川そして大堰川により形成された細長い流域の平坦部と、それらを囲む山地裾部の丘陵地に多くが点在している。

（２）遺跡の概要

現在までに京都府教育委員会を中心に実施されてきた調査で101箇所の遺跡が確認され、遺跡地図・カードが作成されている。

当地域での最古の考古資料は1981・82年の周山窯跡の調査で出土した旧石器時代後期のチャート製の剥片があり、調査地を含む周辺・周山地区に約１万年以上前の遺跡の存在を示している。

縄文時代の遺物としては、1955年に京都府立北桑田高校付近での磨製石斧や宇津小学校校庭での石鏃の発見が挙げられる。縄文時代の確実な遺構は発見されていない。ただ1982年の愛宕山古墳の調査で縄文土器とサヌカイト片が出土しており、今後の周辺での調査・研究が期待される。

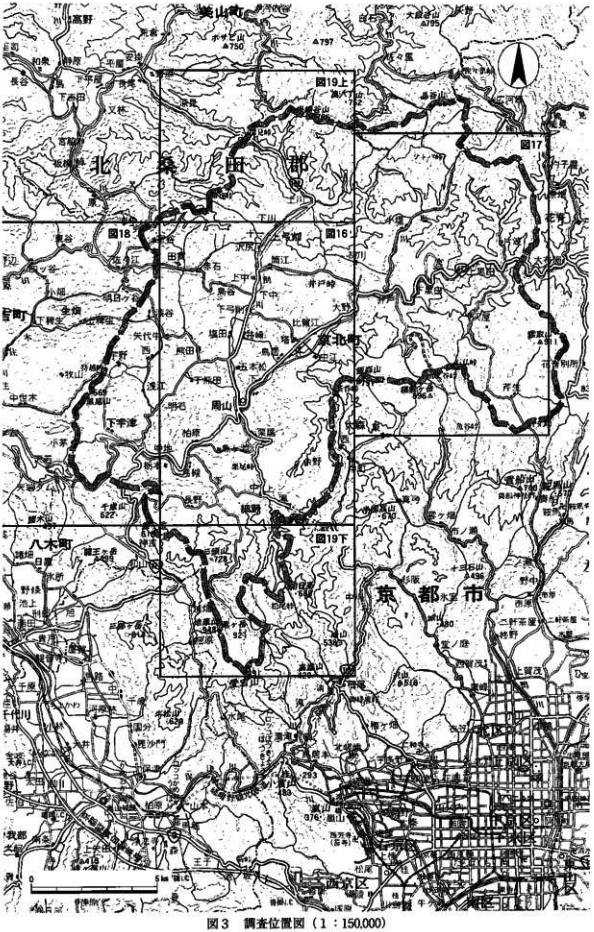


図3　調査位置図（1：150,000）

表1　新資料概要表

時　期	遺跡の概要	備　考
中世～近世	現代墓地の五輪塔、石仏、墓石が集積・散乱（K3・19・20・22・25・26・34）	中近世墓域か。
	路傍の石仏、五輪塔など集積地（K4・5・6・24）	附近に中近世の墓地・寺跡ありか？
	御堂跡など（K12・13・16・18・23・31）	小規模なもの。
	屋敷跡、城跡など（K2・14・29）	
	経塚など（K21・27）	伝承によるものが多い。
	集落跡（K1・7・33）	近世または近代に衰退。
	窯跡（K17）	
	峠の石仏、石塔など（K8・9・10・11・15・28・30・32）	

弥生時代は遺跡が増加し、集落跡が各所で確認されている。栃本地区の宇津遺跡や弓削地区の上中遺跡・上中太田遺跡などがある。また弓削川左岸の丘陵部からは南丹波地域で唯一の銅鐸（下弓削銅鐸）が出土しており、今後さらに多くの集落跡が発見される可能性が高い。

古墳時代は京北地域の丘陵の多くに古墳が営まれ、現在までに180基以上の古墳が確認され京都府下では亀岡市に次いで多い。古墳時代中期の周山古墳群と愛宕山古墳を除けば、古墳時代後期に営まれた横穴式石室を内部主体とする群集墳が数多く存在するものとみられる。

飛鳥時代から奈良時代の遺跡としては周山中学校庭の台地上にある周山廃寺がある。1947年に石田茂作氏を中心とした東京帝室博物館による調査が行われ、伽藍配置が確認された。当廃寺の南に位置する周山窯跡は寺造営のため、瓦や須恵器を供給する窯跡であることが判明している。

平安時代以降、宮都や諸寺院の造営のための木材供給地として発展し、中世には上桂川・弓削川の流域に、山国庄・弓削庄が形成される。特に山国庄には延暦３年（784）の長岡京遷都から明治２年（1869）に至るまで天皇家直轄の禁裏御料地として皇室との関係が深く、光厳天皇山国陵をはじめとする天皇陵や経塚なども多数存在している。1994年に府営圃場整備に伴う山国地区・塔遺跡の発掘調査では平安時代の遺構が出土している。また1993年に調査が行われた上中城や周山城、宇津城などの中世城郭が残存している。なかでも天正７年（1579）に明智光秀が築城した周山城は織豊系城郭の丹波での代表事例として重要遺構である。

3．遺跡確認・分布調査

遺跡の分布を上桂川流域、弓削川流域、大堰川流域に大別した。なお、遺跡番号については、京都府の遺跡地図番号に準拠した。今回新たに確認した資料については、仮番号として番号の先頭にKを付して、その全てを報告し、周知の埋蔵文化財としての取扱いについては、今後検討していくものとする。遺跡の現状確認にあたって古墳群と経塚などについては、多くが山地（植林

地）に立地することから、地主の了解が得られた箇所についてのみ実施した。

以下、各流域別に主要な遺跡の遺存状況と、新たに確認した資料について概述する。

なお、既存遺跡および新資料についての文献は、特段に文中に記載が必要なもの以外は一覧表に掲載することとする。

（1）上桂川流域

この地域の範囲は上桂川流域の両岸を中心として、西は美山町や弓削川流域との境界、北は品谷山、南は北区との境界の範囲である。東から芹生、灰屋、上黒田、宮、下黒田、小塩、井戸、初川、大野、比賀江、中江、辻、塔、鳥居、下の15地区に分かれる。

遺跡（1～34）（図16・17）が分布する。調査では塚谷遺跡（3）を除き、全て再確認した。

弥生時代の遺跡

塔遺跡(19)　上桂川右岸の塔地区に位置する。JA山国支所や塔公民館の南に広がる遺物散布地。1993年から1995年に圃場整備に伴う発掘調査により、弥生時代から中世の集落跡であることが判明している。現状は水田で府道477号線沿いに民家が建ち並ぶ。

院谷遺跡（18）　比賀江地区の山裾の山林に位置する。京北運動公園の北西約450mの林道沿いに広がる遺物散布地。

古墳時代の遺跡

中江古墳群（11）　上桂川左岸にあたる中江地区の山腹に建立されている賀茂神社の参道近くを中心に、東林寺までの山裾に1号墳～32号墳までの円墳が確認されている。京北地域では最多の円墳で構成された古墳時代後期の群集墳である。今回は神社近くの1号墳と11号墳の確認をしたが、1号墳は林道工事で全壊、11号墳も横穴式石室の石材が散乱しており全壊に近い状態であった。

三宅谷古墳群（24）　塔地区の府道塔・下弓削線沿い北の丘陵に17基の円墳が点在する。中江古墳群に次ぐ規模である。今回は府道沿いの1号墳と2号墳を確認したが、いずれも墳丘が完存状態であった。

奈良時代の遺跡

殿橋遺跡（32）　下地区岩ノ元の上桂川下流域右岸に位置する。下公民館、殿橋南の水田に広がっている遺物散布地。圃場整備が完了している。

祇園谷遺跡（34）　下地区祇園谷の上桂川下流域の左岸に位置する。周山中学校の対岸の水田に広がる遺物散布地。圃場整備が完了している。

中世の遺跡

宮城跡（1）　宮地区と下黒田地区にまたがる、上桂川上流域左岸の府道477号線の黒田トンネル上に位置する中世の山城跡である。山頂には五輪塔・石仏が集積し、わずかに石垣も残存する。すでに、山頂までの歩道整備が重機で行われている。

藤原古墓（29）　上桂川左岸にかかる姑棄野橋から約350mの谷間に位置する。平坦地に宝篋印

塔・五輪塔・石仏などが以前に確認されている。現在、宝篋印塔は、常照皇寺に収蔵されていることが地元の文化財担当者により判明し、現状はその跡地にわずかに高まりが残存している。

常照皇寺経塚（７） 井戸地区丸山の常照皇寺境内に位置する。本堂裏にあたる丘陵地で宝篋印塔が確認されている。本堂東には光厳院天皇陵、後花園天皇陵が現存している。

馬塚遺跡（６） 大野地区広畑の常照皇寺南の水田には径約3.5m、高さ約1.5mの経塚とみられる高まりが現存している。

中江城（10）（図14） 中江地区の大野に位置する。堀若狭守の居城という。小野内谷川南の山上にある。今回調査で曲輪を新たに３ヶ所確認した。

新たに確認した資料

新たに確認した資料は上桂川の支流・灰屋川上流の芹生地区では中世から近世の集落および寺院跡・墓地跡などＫ１～３の３箇所であった。灰屋地区・上黒田地区と中江地区では、路傍に石仏・五輪塔・墓標などの集積地点を確認し、Ｋ４～６とした。

Ｋ１（図４） 芹生地区の上桂川支流の灰屋川上流沿いに南北約200m以上、東西50m以上の平坦地に五輪塔、石仏、墓石の集積地、その北側の平坦地では礎石や高まりなどを確認した。

Ｋ２（図４） 芹生地区の勢龍神社・祠表に南北約20m、東西約８mの平坦地に石囲いの施設、溝などを確認した。

Ｋ３（図４） 芹生地区の旧黒田小学校芹生分教場跡地では、南東隅に五輪塔・石仏・石碑の集積地がみられた。勢龍山聖福寺と銘示された石碑を確認している。

Ｋ４（図４） 芹生地区の灰屋川中流域の道路沿いの北側に、石仏の石龕が置かれている。周辺はやや平坦ではあるが、他にみられず単独のものである。

Ｋ５（図４） 上黒田地区の国道477号線沿いの南側に位置する。上桂川が大きく北東に蛇行する左岸の丘陵上にある民家の下に石仏、五輪塔、石碑が並列に安置されている。中央には６体の地蔵尊が置かれ、両側には石仏龕、五輪塔などがみられる。

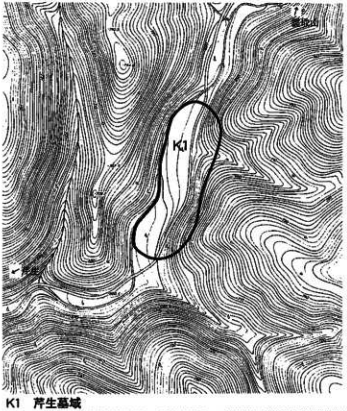
Ｋ６（図４） 上桂川左岸の黒田地区と中江地区にまたがる中江城（10）の北西では、丘陵下の路傍に石仏・五輪塔・墓標などの集積地点を確認した。

Ｋ７（図５） 桂川流域ではないが京北域であり、同流域源流部北隣に位置することからここで紹介する。この集落は由良川源流に位置する。卒塔婆峠より由良川源流に入り、直線距離で1.2kmの距離に廃村八丁がある。廃村八丁の地域の木材に関わる争論[11]の記録は室町時代からあるが、記録として集落が現れるのは江戸時代からである。昭和11年（1936）に廃村になったが、建物の石積みの基壇は今も整然と残っており、山間部の集落の盛衰を彷彿とさせる。

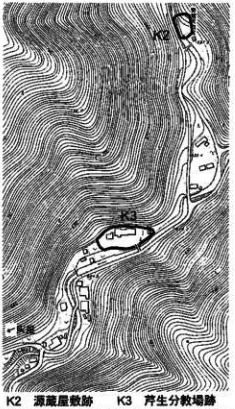
Ｋ８（図５） 廃村八丁から、京北小塩に向かう卒塔婆峠付近に位置する。峠の南約100mに石仏２体が木組み基壇上にある。

Ｋ９（図５） 井戸地区の井戸祖父谷を遡行して祖父谷峠手前約50m附近に石塔と地蔵がある。石塔には、「寛政八年辰年、念仏六百万偏塔……。」と記されている。

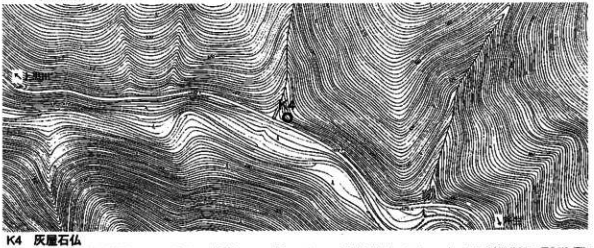
K10（図５） 井戸地区の、井戸祖父谷から地蔵谷に入り石仏峠（雲ヶ畑と井戸を結ぶ）に至



K1　芹生墓域



K2　源蔵屋敷跡　K3　芹生分教場跡



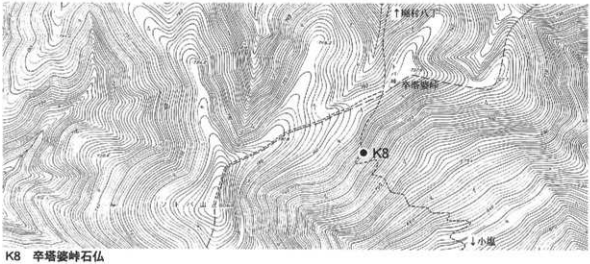
K4　灰屋石仏

K5　吉野橋北石仏集積地

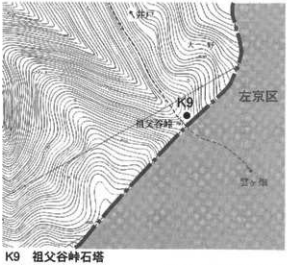
K6　中江石仏集積地

図４　上桂川流域新資料位置図１（１：5,000）

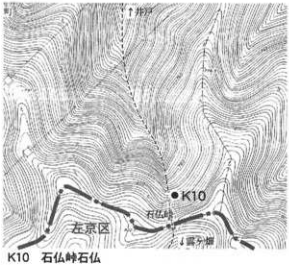
K7　廃村八丁



K8　卒塔婆峠石仏

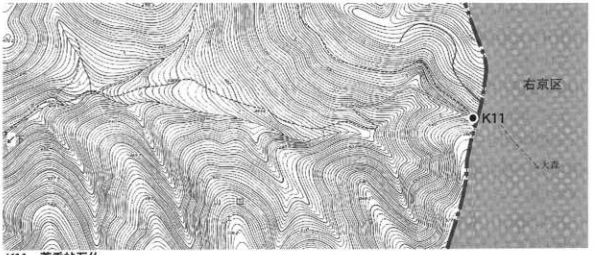


K9　祖父谷峠石塔

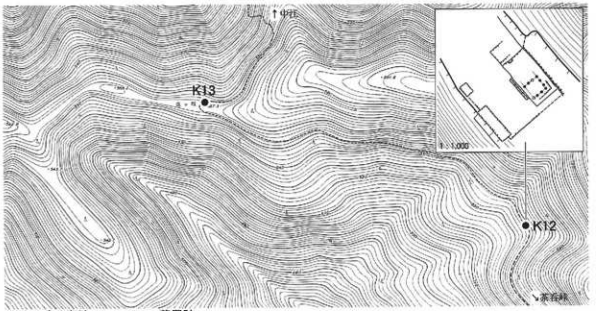


K10　石仏峠石仏

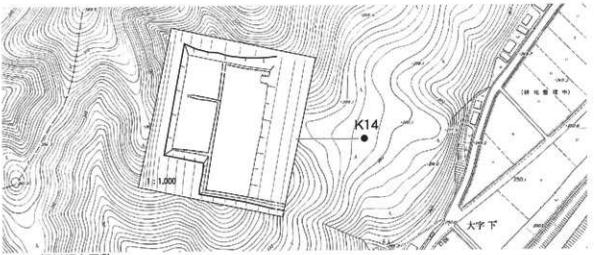
図５　上桂川流域新資料位置図２（１：5,000）



K11　茶谷峠石仏



K12　鳴ノ堂跡　　K13　茶屋跡



K14　細川頼之屋敷

図６　上桂川流域新資料位置図３（１：5,000）

る手前約100m附近に地蔵菩薩像２体（座像と立像）が簡素な石組基壇上に確認された。すぐ横は約４ｍ×３ｍの平坦地があるが、基壇や遺物は検出していない。

K11（図６） 下地区の殿橋から稲荷谷の林道をさかのぼり切ったところが茶呑峠である。祠には江戸中期とされる地蔵が安置されている。京都周山方面大森から京北周山への交通路にあたる。

K12（図６） K11から続く林道沿いに鳴ノ堂といわれている平坦地がある。谷側は石垣を５～６段積み上げ平坦面を造っている。石組基壇は、約20m×20mである。建物は２棟と付属小規模施設２ヶ所から成っている。本堂と思われるところは２段の石段が取りつく廂と周りを石組の基壇で囲っている。中央土壇状の高まりには礎石が散見する。

K13（図６） K12からさらに、林道沿いに約500m西に寄った、竜ヶ坂の下り口には鳴ノ堂茶屋跡とされる石組石窟があり、その中に大日如来座像と地蔵菩薩がそれぞれ安置されている。石窟は概略８ｍ×４ｍを測る。

K14（図６） 下地区の姑奈野山の山麓には、細川頼之屋敷跡[2]といわれているところがある。想定される場所にはおおよそ南北30m、東西20mの規模の平坦地がある。当地は東側への緩い斜面を明らかに削平しており、東端には排水施設に関連するかと思われる石組もある。

（２）弓削川流域

この地域の範囲は弓削川流域の両岸を中心として西は京都府旧日吉町との境界、北は京都府旧美山町である。北から上弓削、赤石、田貫、室谷、上中、下中、下弓削、井崎、塩田、五本松、矢代中、熊田、下熊田、明石、浅江、宇野、周山の17地区に分かれる。

遺跡（35～88・100・101）（図16・19）が分布する。下弓削遺跡（52）を除いてほぼ確認した。

弥生時代の遺跡

上中太田遺跡（48）（図14） 上中地区域の弓削川右岸に位置する。現状は国道167号線の西側の水田地である。中世の平城･上中城北方の底台地である。発掘調査、試掘調査において、遺構･遺物の出土している範囲と京都府の周知範囲が異なるため、京都市埋蔵文化財調査センターの指示のもと修正した。

上中遺跡（49） 下弓削地区沢ノ奥に位置する。京都府立北桑田高校の校舎改築に伴う発掘調査により集落跡であることが判明している。高校を中心に南北約300m、東西約290mの規模で集落が広がるものと思われる。

卯滝谷遺跡（81） 周山地区卯滝に位置する。弓削川下流の右岸にあたる遺物散布地で、現状は府道佐々江・京北線北側の水田である。東西約350m、南北約100mの範囲。

古墳時代の遺跡

22箇所で確認されているが、古墳が多数を占める。

岩ヶ鼻古墳群（36） 上弓削地区岩ヶ鼻に位置する。弓削川上流の左岸にあたる丘陵地に５基の円墳が点在する、京北地域では最北の古墳群である。また５号墳に南接して共同墓地が営まれている。５基の内、３～５号墳について確認した。３・４号墳はともに径約10m規模の円墳で石

室の石材が露出し半壊状態であったが、５号墳は、ほぼ全壊であった。

矢谷古墳群（60） 下弓削地区矢谷に位置する。弓削川流域右岸の東南に延びる谷筋の両斜面の山林で、13基の円墳が確認されている。当流域では最も数が多い古墳時代後期の群集墳である。古墳群は江戸時代の矢谷奥経塚（59）にも西接している。また古墳群内には、弥生時代の遺物散布地である矢谷遺跡（58）が林道沿いに広がる。確認した径６ｍの10号墳は、石室の石材が露出しており半壊状態であった。

飛鳥時代から奈良時代の遺跡

周山廃寺跡（84） 周山地区中山に位置する。上桂川と弓削川の合流点北にあたる丘陵上の平坦地に建立された寺院跡で、現状は旧京北町立周山中学校敷地内である。1947年・1949年の２度にわたる発掘調査で建物跡群が検出され、一部の塔・堂・門跡などが学校敷地内に保存されている。

中世から近世の遺跡

上中城（44）（図14） 上中地区田中に位置する。国道162号線沿い西側の水田に東西84ｍ、南北40ｍの規模で、北側には土塁が完存する中世の平城である。1992年に発掘調査が行われ、翌年には史跡指定を受け整備されて公園化されている。

九門屋敷跡（56） 田貫地区樫見谷に位置する。一般地方道佐々江・井戸線にかかる室地橋北の龍泉寺裏の平坦地に位置する。

寺屋敷遺跡（35）（図15） 沢尻地区の山林に位置する。標高約400ｍの山中の遺跡である。現状は林道南に石段を備えた平坦地に墓石５石が並ぶ。中央には「元禄十六年癸未年」と紀年名が記されたものもあり、遺存状況は良好である。

周山城（88）（図13） 宇津氏を滅ぼした後、明智光秀が築城した城である。既存の範囲とは別に堀切で区画した北側の稜線沿いに独立した城郭の広がりを確認した。

新たに確認した資料

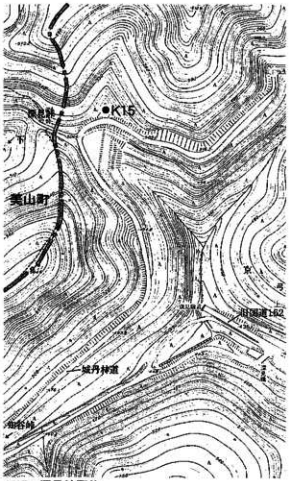
K15（図７） 新たに確認した踏査資料は、上弓削の北端、旧美山町との境の深見峠付近の「右かわち　左ふかみ」を記した地蔵である。

K16（図７） 上弓削地区から、高浜との通商路とされていた知谷峠方向に向かい小字知谷北端から山裾に入り、源流部に荒倉寺跡[3]と云われているところがある。平坦地は３ヶ所ある。大きいものでは東西約20ｍ×南北約10ｍのものがあり、いずれも崩壊が進んでいるが、石組の基壇が一部残っているところがある。

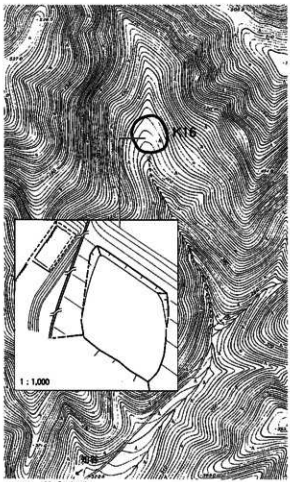
K17（図７） 明石から東へ明石川を源流部に遡行して、「是より朝日山」の標石より、右俣を辿る。山頂附近に近世の炭焼き窯がある。

K18（図７） 既述した寺屋敷遺跡（35）から、北東方向へ古道を約500ｍたどった山裾に石垣などで平坦面を形成した朝日寺跡[4]とされる一帯がある。平坦面は大小６面あり、大きいものは約70ｍ×20ｍを測り、石組囲いの中に土壇状の高まりがあり、遺構の中心施設を窺えるものもある。

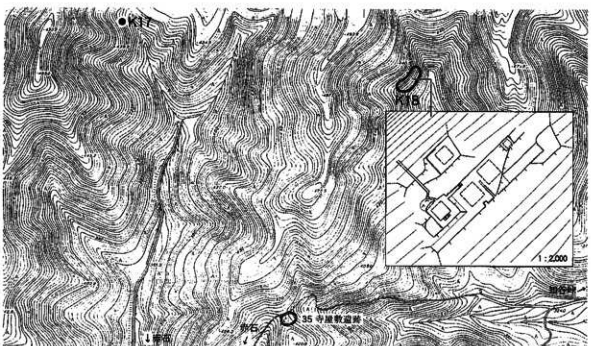
K19（図８） 上中地区中道寺南に位置する。弓削川に架かる中道寺橋東へ約200ｍ、中道寺経



K15　深見峠石仏

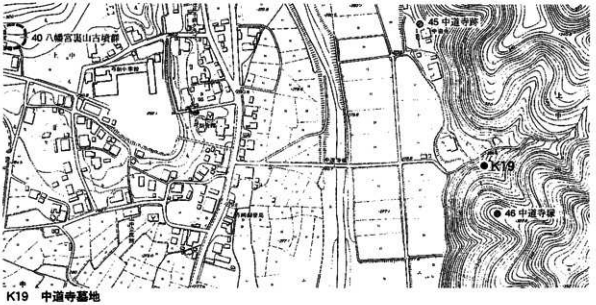


K16　荒倉寺跡

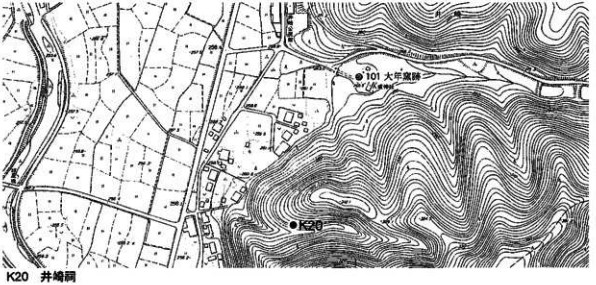


K17　赤石奥窯跡　　K18　朝日寺跡

図7　弓削川流域新資料位置図1（1：5,000）



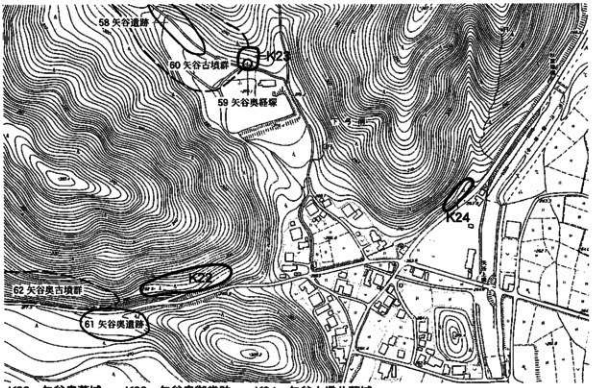
K19　中道寺墓地



K20　井崎祠

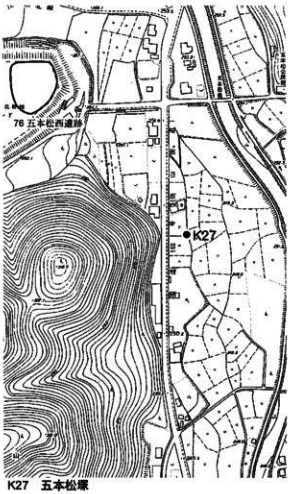
K21　あやめ塚

図８　弓削川流域新資料位置図２（１：5,000）



K22　矢谷奥墓域　　K23　矢谷奥御堂跡　　K24　矢谷上横北墓域

K25　筒江墓域　　K26　岩ヶ鼻墓域



K27　五本松墓

図9　弓削川流域新資料位置図3（1：5,000）

塚（46）北側の平坦地である。現在の共同墓地内に五輪塔・石仏が並列している。東西約40m、南北約25mの規模である。

K20（図８） 井崎地区大年に位置している。大年窯跡（101）南、国道162号線から東へ約150mの林道沿いにあたる。石の笠塔婆とその横には祠が置かれている。笠塔婆には「安政六年未三月吉日」と銘示されている。

K21（図８） 矢代中地区に位置する。松寿寺南の民家横に宝篋印塔の一部が安置され、源三位頼政ゆかりの「あやめ塚」と当地では呼称されており当地に塚[5]が存在したことを示すものとして重要である。

K22（図９） 下弓削地区矢谷奥に位置する。矢谷奥古墳群（62）の東接地にある現在の共同墓地内に五輪塔・石仏が散乱する。東西約120m、南北約20mの規模。

K23（図９） 下弓削地区矢谷奥に位置する。矢谷奥経塚（59）の「一字一石法華経塔」裏の平坦地に一辺約６mの基壇状の高まりと、その北には径約２mの井戸跡が２基残存している。時期は不明であるが、小規模な御堂などが存在していた可能性を示すものである。

K24（図９） 下弓削地区矢谷に位置する。弓削川の矢谷上横北西の丘陵際の旧道沿いにあたる。現在の共同墓地内に五輪塔・石仏が並列している。東西約10m、南北約50mの規模である。

K25（図９） 上中地区岩ヶ鼻に位置する。筒江古墳群（37）の範囲内に位置した現代の共同墓地内にあたり、五輪塔、石仏が混在している。範囲は東西約40m、南北約20mである。

K26（図９） 上弓削地区岩ヶ鼻に位置する。岩ヶ鼻古墳群（36）隣接地の現代共同墓地内である。西に石の階段が造られ、その前には六体の石製の地蔵尊が並ぶ。墓石はひな壇状に造成された上に置かれ、並列して五輪塔、石仏が混在する。東西約20m、南北30mの範囲である。

K27（図９） 五本松地区に位置する。弓削川右岸にあたり、国道162号線沿い東の水田畔上で、花園大学京北校地から南東250mに、径約2m、高さ0.5mの小規模な墳丘状の高まりを確認している。その様相は常照皇寺南に位置する経塚とみられる馬塚遺跡（６）と類似している。

（３）大堰川流域

この地域の範囲は大堰川流域の両岸を中心として西は京都府船井郡旧日吉町との境界、東は京都市北区、北は周山地区の北半部と明石地区、南は京都市右京区の範囲である。また細野川流域も含む。東から周山、細野、柏原、弓槻、栃本、中地、下字津の７地区に分かれる。

遺跡（89～99）（図16・18・19）が分布する。この流域の遺跡は全て確認した。

縄文時代の遺跡

東山遺跡（89） 周山地区上ヶ市に位置する。縄文時代から中世の遺物散布地で、上桂川と弓削川の合流地点左岸の山腹にあたる現在の共同墓地の西に広がる。今回の調査では墓地内でも中世から近世の土器片を採取していることから、さらに東に広がるとみられる。

栃本遺跡（95） 中地地区に位置する。大堰川の下流左岸の丘陵地に広がる縄文時代の遺物散布地である。現状は植林地である。

古墳時代の遺跡

長野古墳群（94）　長野地区に位置する。細野川下流右岸の大神宮社裏に古墳時代後期の２基の円墳が、点在する。１号墳は完存しているが、２号墳の墳丘は半壊状態である。京北地域での古墳分布では最南に位置する。

飛鳥時代から奈良時代の遺跡

周山窯跡群（90）　周山地区上ノ段に位置する。瓦陶兼用の窯跡群で弓削川と上桂川の合流地点の南右岸の台地に立地している。1981・82年の調査の後、１号窯～４号窯は府から史跡指定され宅地の西に現状保存され完存している。

中世から近世の遺跡

御殿山遺跡（93）　細野地区御殿山に位置する。細野川右岸の山腹に立地する中世から近世の城館跡である。山腹には旧二条家関白明信と銘示された墓石があり、近接する平坦地が城館跡とみられる。

宇津城跡（97）（図13）　下宇津地区に位置する。大堰川右岸にあたる八幡神社裏山の頂上にある。倒木で崩壊が進んでいる。

貞任首塚遺跡（98）（図15）　下宇津地区に位置する。大堰川下流の西の山腹にある。現状は貞任峠沿い南に近年、改修された祠がある。なお、地元の方では現状の位置が異なるという見解[6]がある。

宇津嶽山城跡（99）（図13）　宇津地区下浮井で旧日吉町との境にある。宇津城を本拠とする宇津頼重の山城である。人尾峠から尾根伝いである。遺構は良好に遺存している。

新たに確認した資料

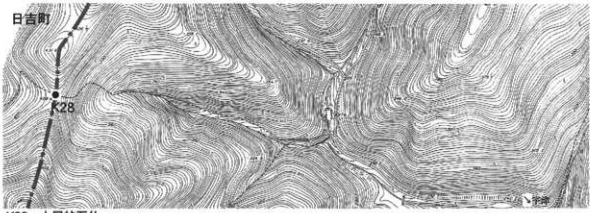
K28（図10）　宇津下浮井の田谷川を遡行して峠がある。貞任峠の首塚と同じ性格の人尾峠であり、そこに簡素な祠と地蔵菩薩がある。また、この地点は、宇津嶽山城にいたる鞍部にも当る。

K29（図10）　細野地区の中と下の境界付近である。細野地区には砦もしくは城[7]があるともいわれている。地元の方の案内で３ヶ所を探索した。そのうち１ヶ所は御殿山遺跡（93）が、地理的な条件と郭状の平坦面と石垣の存在、竪堀の可能性がある人工的溝の存在から、可能性が濃いと見ている。二条家の屋敷跡というのは、その跡地利用としてのものであろう。

今一つは峰寺[8]といわれているところであるが、地元の人に案内していただいたが今回は確認できなかった。地理的な関係から寺の可能性はあっても城ではないと思われた。今一つは、通称ダイラと呼ばれている細野集落南側丘陵部で、石垣で平坦面を8面構成する所である。地元では穏田・御田と呼ばれ田地跡とされている。地元研究者はこれを城の可能性有りとしている。細野集落が一望できること、京都側から攻めにくいことなどから、可能性は否定できないが、跡地利用で田地としたのであろうが、それ以上の根拠を見いだせないので、記述と遠望写真のみとした。

K30（図10）　周山地区の栗尾トンネル上に位置する。小栗尾峠には「享保五庚子歳」を刻した地蔵と「大般若理趣分□　文化十三子年」と刻した石塔、そして、一石五輪塔２基がある。

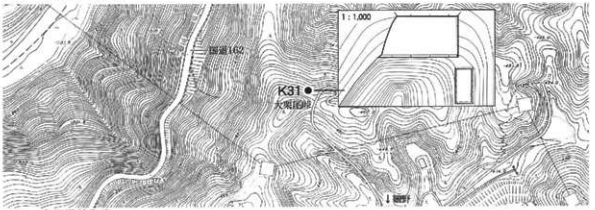
K31（図10）　大栗尾峠に位置する。大栗尾峠下には、「弘法大師堂、文化四卯年銘」の石塔が



K28　人尾峠石仏

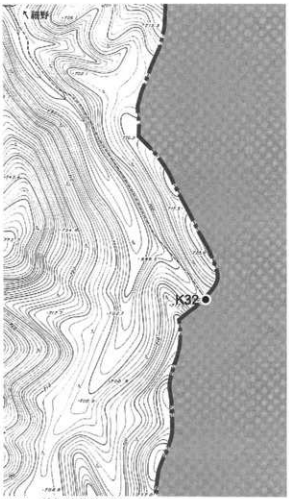
K29　細野城推定地

K30　小栗尾峠石造物

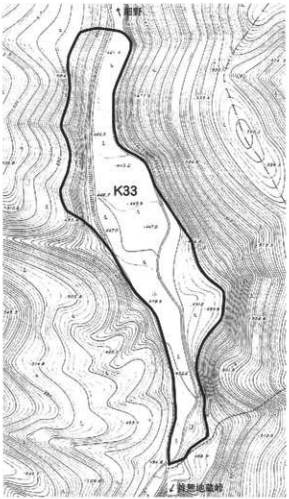


K31　大栗尾峠御堂

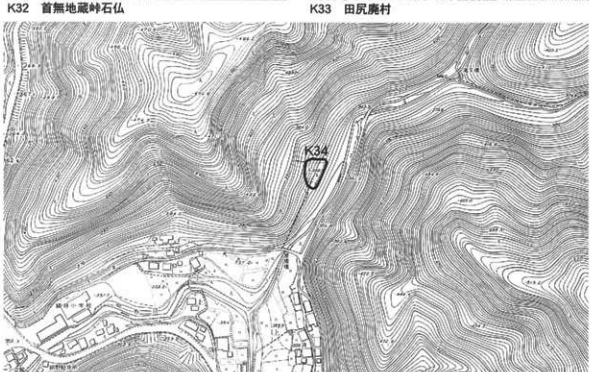
図10　大堰川流域新資料位置図１（１：5,000）



K32　首無地蔵峠石仏



K33　田尻廃村



K34　細野墓域

図11　大堰川流域新資料位置図２（１：5,000）

立ち、附近に約20m×10mと8m×4mを想定できる平坦面がある。小規模なものには石組が5列ほど残る。

K32（図11） 細野地区と高尾を結ぶ峠に位置する。田尻廃村の奥には首無地蔵峠があり、附近に首無し地蔵がある。細野-ダルマ峠-首無地蔵峠-愛宕神社へのルートでもある。

K33（図11） 前述の首無地蔵峠と細野集落への途中に田尻廃村跡がある。今も、石積みの基壇を伴う集落跡が整然と残り、廃村八丁とともに京北の厳しい自然環境と歴史を物語っている。

K34（図11） 細野地区の上集落の北西にあたる山裾に営まれている現代の共同墓地内で、五輪塔・石仏などの集積地を確認した。中世から近世墓地の存在を示す資料である。

4．道路建設予定地の分布調査

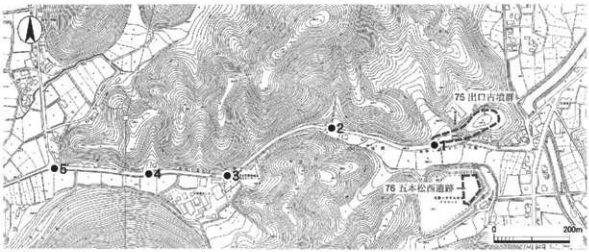
市で予定されている道路拡幅・延長事業の3路線について、事業予定地とその周辺を踏査した。北から道路1～3とし、調査の結果を概述しておく。

道路1（図12） 一般地方道佐々江・京北線の東西道路である。延長約1,250m。東端部から1地点の北側には古墳時代後期の出口古墳群（75）が近接している。1地点の北接地では7号墳を確認した。林道と水路により墳丘、石室とも削平され半壊状態で、残存部から径約8.0m、高さ約2.0mの円墳とみられる。道路南側は西から東への谷地形であることから、北側に位置する7号墳は当古墳群の南限とみられる。また谷を挟み南の丘陵地は縄文時代から古墳時代の遺物散布地である五本松西遺跡（76）にあたるが、現状は花園大学京北校のグラウンド造成により消滅している。1地点～2地点は山地を削り出して道路が造られており、切り通し部にあたる。3地点～5地点にかけては北側は山地、南側は谷間にあたる。3地点～4地点の南は現在、道路に沿ってJA営農センターの建物がみられる。4地点～5地点の南側の現況は水田で、その南の丘陵北斜面の平坦地には当地の共同墓地が営まれている。

道路2（図12） 道路1より南へ一筋目の東西道路である。延長約2050m。西半部の1地点～2地点付近までの道路北側は下熊田集落の民家がみられ、南側は水田である。3地点～4地点は切り通し部にあたる。東半部の4地点～5地点の北側の水田は弥生時代の遺物散布地である卯滝谷遺跡（81）が広がる。5地点～6地点も北側は水田で南側は山地である。6地点では水田北の山地先端の平坦地に古墳時代後期の大年古墳群（78）がみられ、東端部に現代の共同墓地が営まれている。

道路3-1（図12） 国道162号線の京北町側からトンネルに取付く東西道路予定地である。延長約1,800m。東の山地に向かう林道である。1地点～2地点は北側が山地で岩盤が露出している。南側は東西方向の川が流れる。2地点～3地点では北側に小規模な平坦地がみられるが、性格は不明である。3地点の東接地では林道が分岐する。

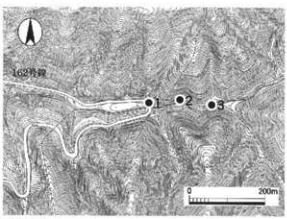
道路3-2（図12） 国道162線の京都市街地側からトンネルに取付く南北道路予定地である。延長約400m。1地点～3地点は道路の両側に当地集落の民家が建ち並ぶ。2地点～3地点には、



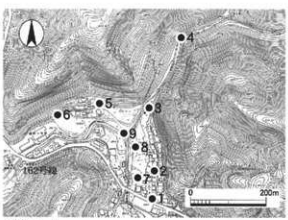
道路１

道路２（西半部）

道路２（東半部）



道路３－１



道路３－２

図12　道路部分調査位置図（１：10,000）

表2　遺物概要表

時　代	遺　　跡	遺　　物
奈良時代	下弓削遺跡（52）遺物包含層 岩ヶ鼻墓域（K25）	土師器皿、須恵器杯
室町時代 ～江戸時代	東山遺跡（89）隣接地	土師器皿、焼締陶器鉢、陶磁器壺、陶器椀、染付椀

ほぼ等間隔で東側に路傍祠と石仏・五輪塔・宝篋印塔も置かれている。また3地点北の東斜面の平坦部には近世の個人墓地がみられる。また3地点～4地点の西側の山田川の対岸斜面には、当地の共同墓地があるが、墓地内には五輪塔・石仏などの集積地もある。3地点～6地点は北が山地で、集落の北限でもある。7地点～9地点は田・畑地で西側に細野川が南流し、谷地形を呈する。9地点は細野川と山田川の合流点である。

5．遺　物

採取遺物は整理箱に1箱である。土器類が大半である。土器類には須恵器杯、土師器皿、陶器椀、陶磁器壺、焼締陶器鉢がある。下弓削遺跡では道路際の遺物包含層から採取した土師器皿は、体部が外反し端部を丸くおさめる。8世紀前半に属する。また、岩ヶ鼻では現代の共同墓地の墓道で、奈良時代とみられる須恵器杯の高台部破片などを採取している。東山遺跡隣接地の共同墓地内で採取した土師器皿片はいわゆる「へそ皿」で、室町時代とみられる。常滑焼の鉢片も採取した。その他は江戸時代の陶磁器・陶器・染付である。

6．ま　と　め

（1）遺跡の確認・分布調査

京北地域では、これまでに京都府教育委員会を中心とする調査で確認された遺跡の総数は101である。今回の調査では大半の遺跡の現状を確認した。また新たに遺跡が存在するとみられる推定地を34箇所確認した。以下に今回の調査結果から京北の遺跡について概観しておく。

当地域での最古の考古資料としては周山窯跡群（90）の調査で発見された旧石器時代後期の石器がある。

これに続く縄文時代の遺跡は狭間谷遺跡（68）・五本松遺跡（73）・東山遺跡（89）・栃本遺跡（95）がみられるが、いずれも遺物散布地で明確な遺構は知られていない。

弥生時代は弓削川右岸の上中太田遺跡（48）・上中遺跡（49）、また弓削川左岸の丘陵地から出土したものと推定されている下弓削銅鐸出土地（57）、大堰川下流の右岸に位置する宇津遺跡（96）がある。上桂川流域は右岸の塔遺跡（19）が確認されているだけである。

古墳時代の遺跡数は古墳・古墳群が50と、全体のほぼ半数を数える。大多数の古墳が古墳時代後期に属する群集墳である。古墳を単独でみると総数180基を超える。前期古墳は現在まで確認されていないが、中期の古墳として上桂川右岸の塔地区の愛宕山古墳群（22）の１号墳と、弓削川と上桂川の合流地点の周山地区の周山古墳群（33）の１号墳とが知られており、いずれも方墳であることが興味深い。これらの古墳が築造された背景として、大堰川水系を介した亀岡・山城地域と若狭・近江地域とを結ぶ東西交通路の要所を占める、当地の好適な立地条件を考える必要があろう。

飛鳥時代には弓削川と上桂川の合流地点に近接して周山廃寺跡（84）がみられ、大堰川の右岸には当寺所用の周山窯跡群（90）が位置する。いずれも調査後に保存され府の史跡に指定されている。

奈良・平安時代を通じては周山廃寺の周辺に祇園谷遺跡（34）や高梨遺跡（83）などの遺物散布地がみられ、当廃寺にかかわる遺跡として重要である。また弓削川流域の上中・下中地区では弓削道鏡が創建したとされる福徳寺跡（47）があり、その対岸にあたる上中遺跡（49）は、奈良時代の遺構をはじめ、弥生時代から鎌倉時代の複合遺跡で、府立北桑田高校を中心に広がっている。その南の遺物散布地である下弓削遺跡（52）は今回の調査で、道路際に露出していた遺物包含層から、奈良時代の土師器皿を採取しており、上中遺跡との関連を示唆している。

中世の遺跡は宮城跡（１）・平井谷城館（２）・中江城（10）・塔城（21）・上中城（44）・八津良城（82）・周山城跡（88）・宇津城跡（97）などの平・山城が点在する。今回の調査では塔城（21）を除いて踏査した。

中世から近世の経塚などについては、常照皇寺経塚（７）・慈眼寺経塚（86）の寺境内にある経塚と、最玄寺経塚（14）・藤原古墓（29）・中道寺塚（46）・矢谷奥経塚（59）・狭間谷経塚（69）・金屋経塚（70）などの山腹にある経塚と古墓、また馬塚遺跡（６）のように平地にある経塚もみられる。山腹に位置するものは、近年の林道整備・宅地造成などで現況は大きく変成を受けている。今回の調査では現状を確認できなかった（14・69）、全壊したもの（70）、墓石が移動している（29）などがある。また平地の（６）に類似した新たな経塚とみられるK16を五本松地区の水田で確認している。

また、中近世の寺・御堂については、周知のものでは、永林寺跡（66）、中道寺跡（45）、霊願寺跡（５）、寺屋敷遺跡（35）がある。一方、今回確認した新資料は一定の特徴をもつ。矢谷奥経塚（59）裏のK23では基壇状の高まりと井戸跡を確認しており、小規模の御堂の可能性が高い。さらに、沢尻奥の朝日寺跡、上弓削十一奥の山麓の荒倉寺跡、栗尾峠の御堂、茶呑峠西の鳴ノ堂などがある。地理的には、既述の寺屋敷遺跡（35）も含まれることになるが、これらは立地としては集落に伴う寺とは異なる。京・京北と日本海を結ぶ峠越えのルート沿い、もしくは近辺であること、山麓部にあること、朝日寺跡を除いて概ね小規模であること、などから修業と道中安全の避難小屋的性格をかねた聖、沙弥的な性格の修験僧の御堂の性格が窺える。

中近世の墓については、現代の共同墓地内に中世から近世の五輪塔・石仏・宝篋印塔などの石

造品の集積地が一角にみられるK３・19・20・22・25・26・34、また路傍に中世から近世の五輪塔・石仏などが安置されたK４・５・６・24を確認している。近辺に寺が存在する可能性もある。なかには古墳群と共存するK10・11もみられる。また当地域の共同墓地入口のほとんどに地蔵石仏６体が安置されており、室町時代からの民間地蔵信仰の伝統を受け継がれている事実として興味深い。

また、中近世の石仏・石塔については、峠とその附近の多くに、地蔵菩薩などの石仏や石塔などが安置されているのも特徴的である。道標の文字を刻むものには、首無地蔵峠地蔵、深見峠地蔵、石仏峠地蔵、茶呑峠地蔵などがある。供養塔では、人ノ尾峠地蔵菩薩、大栗尾峠五輪塔、小栗尾峠経塚・五輪塔、祖父谷峠石塔、卒塔婆峠、鳴ノ堂茶屋跡がある。また、峠附近の供養塔は存在そのものが道標を兼ねていると思われる。したがって、交通路に共通する道標的な性格、その延長上に位置する道中安全、そして交通路・峠に関わりのある人々にとって何らかの供養の性格をもつ石造物が散在していることになろう。

なお、廃村八丁や田尻廃村、そして芹生など、集落跡が残っている事例が有るのも特徴的である。特に芹生地区では中世の寺跡・墓域に関連する遺構の存在が推定されるK１や、神社祠裏に屋敷跡とみられるK２なども確認している。K１については明応２年（1493）に建立された聖福寺[9]の本堂跡が、芹川沿いの小学校分教場跡地（K３）に残存しているが、本来は上流の「不動平」と呼称された地にあり、近代に移転されたことが地元の記録や伝承に残されている。伝承からは「不動平」の地がK１とみられ、また分教場跡地には五輪塔・石仏・石碑などの石造品が一角に集積され、石碑には「勢龍山聖福寺」と銘示されていることから、地元の伝承を裏付けている。K２は1943年に芹生史跡保存会が建立した勢龍天満宮裏の平坦地で、「菅原伝授手習鑑四段目寺子屋」の舞台ともなり、菅原道真の家臣・武部源蔵の屋敷跡という伝承が残されていることから、何らかの施設の存在が窺われる。

また、近年の圃場整備で確認が難しくなりつつあるが、京北の地では条里制の痕跡を指摘されてきた。ことに、山国・弓削・宇津・周山では、圃場整備後においてもその条里制の遺跡のなごりを窺うことができることも付け加える。

（２）道路建設予定地の調査

道路１の東端は北側に古墳時代後期の出口古墳群（75）が近接しているが、道路南側は西から東への谷地形で、道路北側の半壊状態の７号墳までが当古墳群の南限とみられる。また西側は切り通し部で、さらに西側は北の山地と南の谷地形に挟まれており地形の観察からは遺跡が存在する可能性は低いと考えられる。道路２は東半部北の水田に弥生時代の遺物散布地である卯滝谷遺跡（81）と、東端北の山地先端には大年古墳群（78）がみられる。道路東半部では卯滝谷遺跡の南への広がりが予想される。道路３-１は東西方向の林道で、北側が山地で岩盤が露出し南側は東西方向の川である。道路３-２の周辺は集落の民家が建ち並び、路傍祠と石仏・五輪塔・宝篋印塔や近世の個人墓地・共同墓地があるが、予定地にあたる西側は水田・畑地で細野川が南流し、

谷地形を呈する。水田・畑地では顕著な遺物は採取できず、今回は道路3-1・2では遺跡の存在は確認できなかった。

註

1）八丁を含めた最古の争論は徳治2年（1307）に遡るという。
人巻　亨「京都北山山域の歴史」『第41回全国高等学校登山大会予報第1号』 平成九年度全国高等学校総合体育大会京都北山実行委員会　1997年

2）細川頼之の記述がある。応安三年（1370）から三年間山国庄姑楽野の山麓に住んだとある。
『京北町誌』 京北町　1975年

3）本坊と寺坊に多くの僧が住んでいたとある。『ふるさと再発見』 ふるさと京北綺杉塾　2004年
実見には、地主の石浦道男氏に案内していただいた。氏によれば、祖父から山に連れてこられた時に実見し、そこが寺跡であったと教えられたという。

4）仁和寺末寺、嘉永元年（1303）建立という。『ふるさと再発見』 ふるさと京北綺杉塾　2004年
また場所については、米津忠男氏に御教示いただいた。

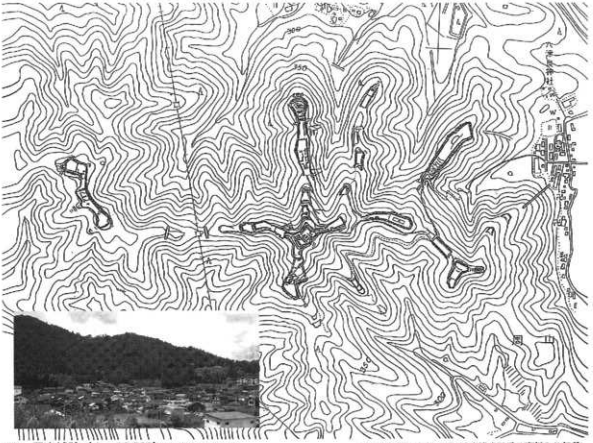
5）「矢代の里」『京北町誌』 京北町　1975年　場所などについては、卯滝秀雄氏に御教示いただいた。

6）宇津中地の池上　保氏よりご教示いただいた。図15-98掲載の石塔写真は氏の提供による。

7）城主細野藤十郎直国とあるが所在は不明である。『日本城郭大系』第11巻　新人物往来社　1980年

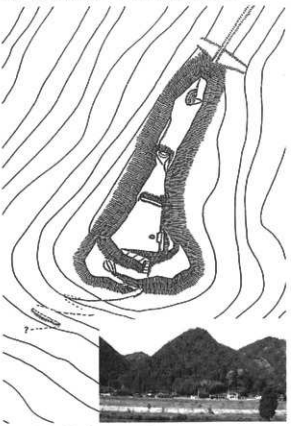
8）峰寺跡については細野地区長野の安井多喜男氏、ダイラについては細野地区上の石井敏雄氏に案内していただいた。

9）勢竜山聖福寺は本山本満寺。明応二年（1493）三明院日通の開基。不動平にあったという。
船越善次郎「史跡・仙塊」『芹生の里』 西村印刷　1963年
芹生の様々なことについて廣畑忠男氏より、史料など便宜をはかっていただいた。

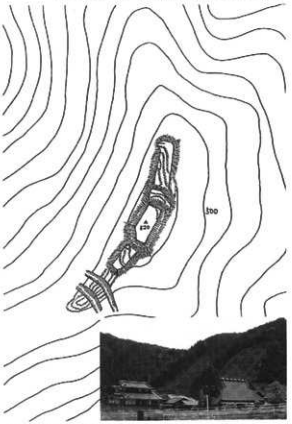


88　周山城跡（1：10,000）<写真：東から>

※図13（88・97・99）は高橋成計氏の資料より転載

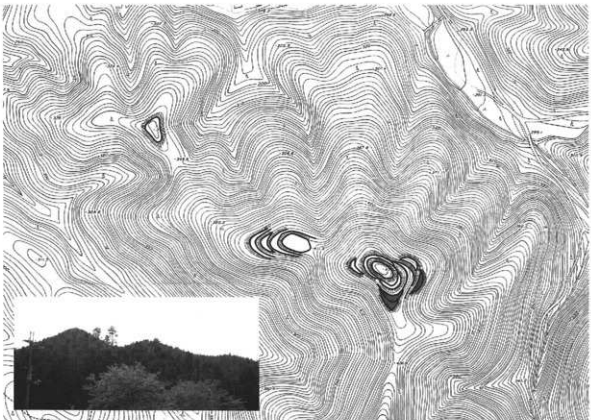


97　宇津城跡（1：2,000）<写真：南から>

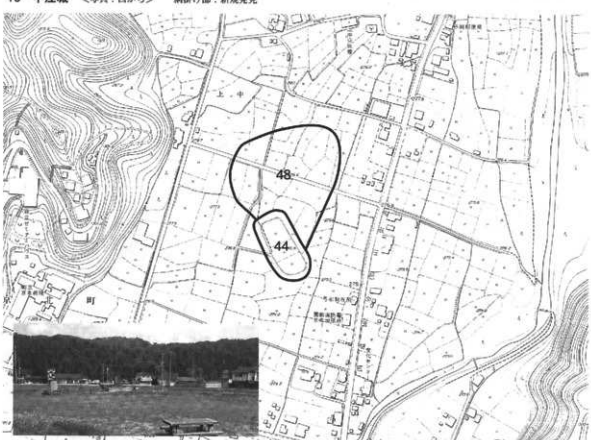


99　宇津嶽山城跡（1：2,000）<写真：東から>

図13　既存遺跡位置図1（1：2,000・1：10,000）

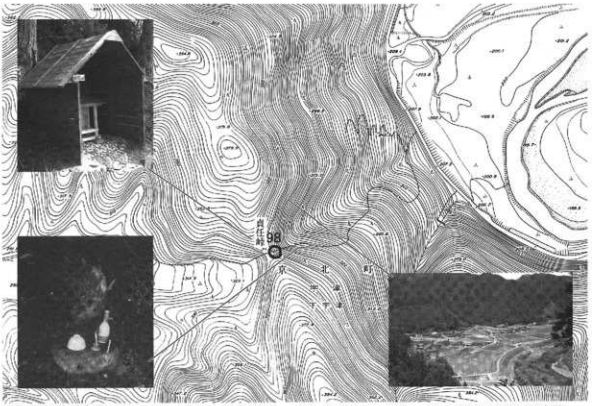


10　中江城　<写真：西から>　網掛け部：新規発見

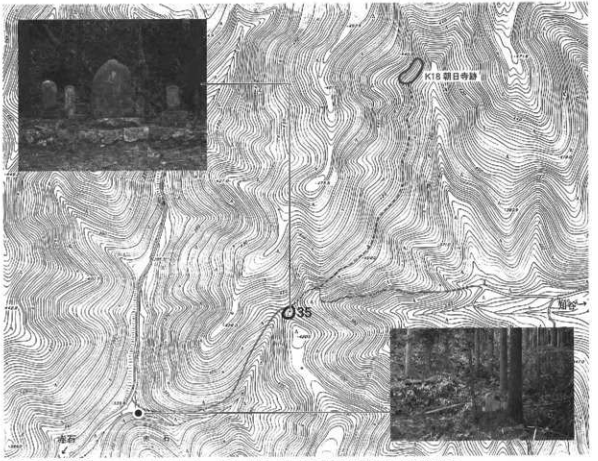


44　上中城　<写真：西から>　　48　上中太田遺跡

図14　既存遺跡位置図２（1：5,000）



98　貞任首塚遺跡　<写真／左上：北東から（現在の首塚）　左下：池上保氏提供（首塚）　右下：峠付近より宇津方面遠景>



35　寺屋敷遺跡　<写真／左上：西から　右下：西から（赤石郵便局「是より朝日山」道標あり）>

図15　既存遺跡位置図３（１：5,000）

図16　遺跡分布図１（１：50,000）

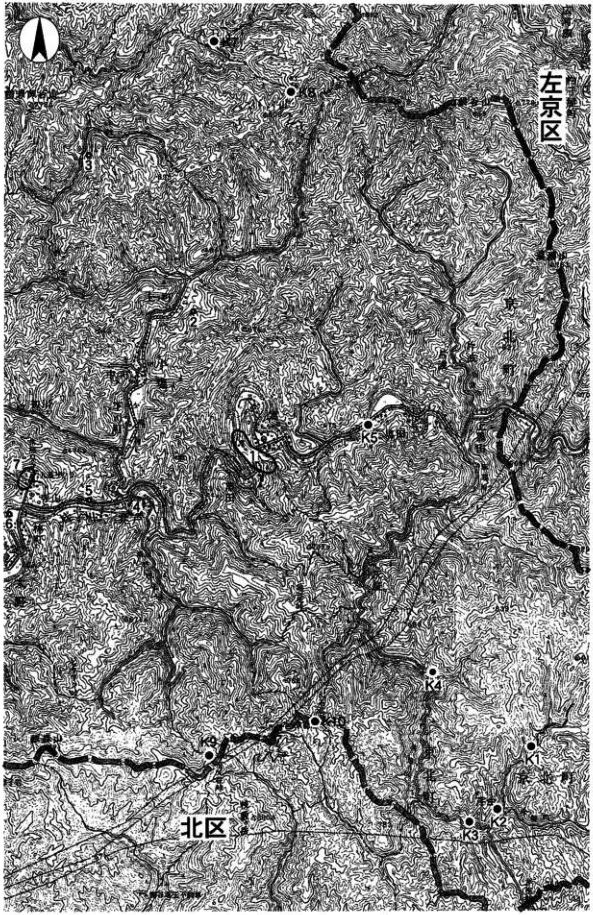


図17　遺跡分布図２（１：50,000）

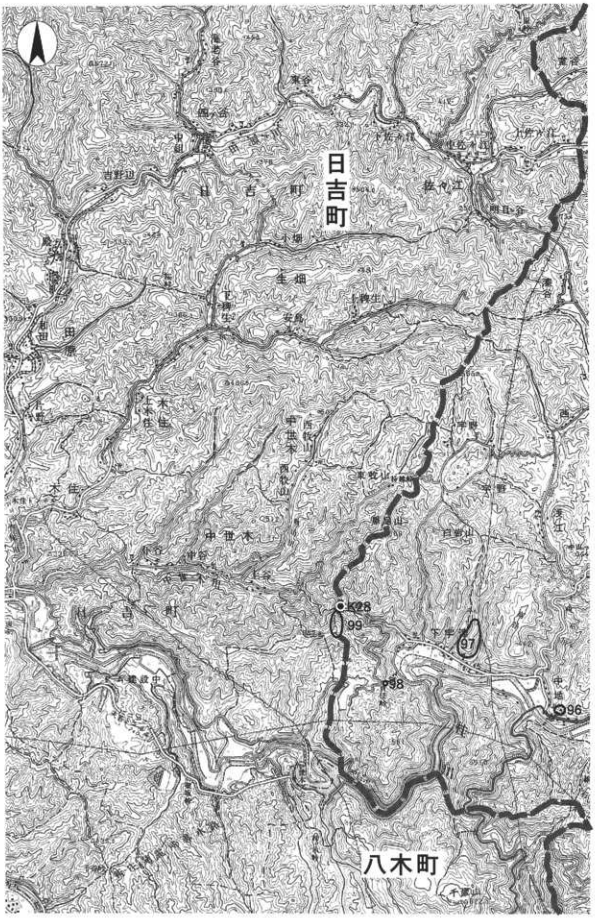
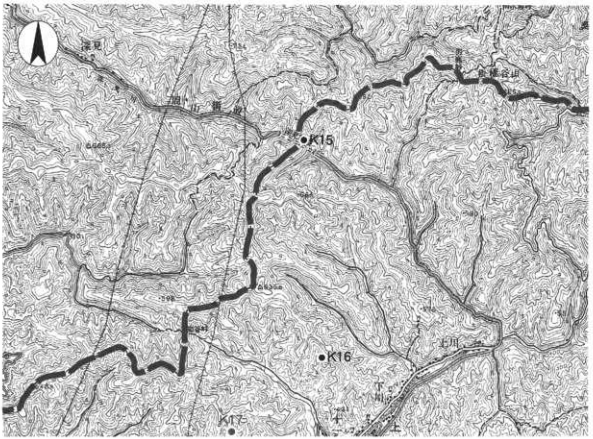


図18　遺跡分布図３（１：50,000）



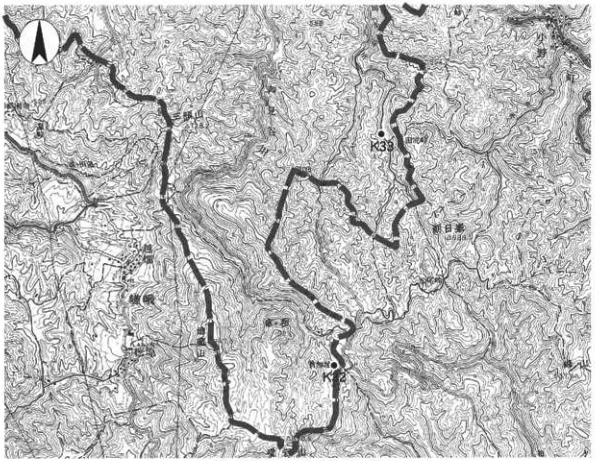


図19　遺跡分布図４（１：50,000）

表3　既存遺跡調査表

No.	名　称	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　考
1	宮城跡	城	大字宮	近世	半壊	N35°12′12.3″ E135°43′02.9″	4	19	散策路：重機造成中。
2	平井谷城館	館	大字小塩 小字上坂		完存	N35°13′16.5″ E135°42′27.9″	5	13	附近には五輪塔など散在。直近の橋名は坊橋であり、寺跡か。
3	塚谷遺跡	墓地	大字小塩 小字西谷		全壊	N35°07′34.8″ E135°38′47.5″	5	13	未確認。
4	祖父谷古墳群 （3基）	古墳	大字井戸	古墳	完存	N35°11′50.0″ E135°42′05.7″	4	19	1号墳完存、盗掘。2号墳全壊。
5	雲願寺跡	墓地、 寺院跡	大字井戸 小字小塩口	古墳	全壊	N35°11′48.2″ E135°41′41.2″	4	19	道路沿いに地蔵・五輪塔あり。 西側に古墳、石材露出一全壊。
6	馬塚遺跡	塚	大字大野 小字広畑	室町、 鎌倉	完存	N35°11′43.7″ E135°40′59.2″	4	21	規模からして円形の（経）塚と思われる。
7	常照皇寺経塚	経塚	大字井戸 小字丸山	室町		N35°12′04.3″ E135°41′08.0″	4	21	境内の東横に五輪塔・供養塔・墓石など多数。
8	野上古墳	古墳	大字大野	古墳	完存	N35°10′54.1″ E135°40′16.0″	5	9	古墳の下方に大岩がある（北西）。
9	長池古墳群 （7基）	古墳	大字大野 小字長池	古墳		N35°11′27.7″ E135°40′48.1″	4	21	東隣接地に現代墓域、周辺に五輪塔などを50基以上。
10	中江城	城跡	大字中江	戦国		N35°10′41.2″ E135°40′36.2″	12	21	曲輪は東に3ヶ所増。西は1ヶ所減一図あり。
11	中江古墳群 （32基）	古墳	大字中江 小字谷川尻			N35°10′27.9″ E135°40′12.8″	5	9	1号墳林道で全壊。11号墳全壊。 11号墳西隣に新発見の古墳？
12	大野古墳群 （7基）	古墳	大字比賀江	古墳		N35°11′15.9″ E135°40′28.0″	4	21	三菱保養施設→山下遺園買収地に変更。
13	大野西古墳	古墳	大字比賀江	古墳	完存	N35°11′09.7″ E135°40′16.2″	4	21	山麓に宝篋印塔・五輪塔あり。 中近世の墓地、寺院の寺域か。
14	最玄寺経塚	墓地、 経塚	大字比賀江 小字最玄寺	江戸		N35°11′14.6″ E135°40′06.6″	4	21	№13との関連からも寺院跡と思われる？
15	六ヶ遺跡	散布地、 墓地	大字比賀江			N35°11′09.7″ E135°40′16.2″	4	21	現代の共同墓地であるが五輪塔・石仏などが集積。
16	比賀江古墳群 （5基）	墓地	大字比賀江	古墳		N35°10′58.3″ E135°39′47.7″	4	21	№5はコンクリートの擁壁により全壊。
17	院谷古墳群 （4基）	墓地	大字比賀江	古墳		N35°11′18.8″ E135°39′32.1″	4	21	林道線閉鎖。実見不可。
18	院谷遺跡	散布地	大字比賀江	弥生		N35°11′10.2″ E135°39′29.0″	4	21	想定地は確認済。
19	塔遺跡	住居跡	大字塔	弥生 ～中世		N35°10′38.0″ E135°39′24.0″	4	21	477号をはさみ、塔公民館・京北農協山国支所・縄手橋が範囲。
20	塔村古墳群 （2基）	古墳	大字塔 小字三宅谷	古墳	完存	N35°11′07.1″ E135°39′19.4″	5	9	稲荷が祭ってある。
21	塔城	城跡	大字塔			N35°10′49.8″ E135°39′23.3″	5	9	未点検。遠景写真。
22	愛宕山古墳群 （6基）	古墳	大字塔 小字宮谷	古墳	半壊	N35°10′55.7″ E135°39′35.9″	4	21	3～6は一部基底部が残存。 1・2は未実施。
23	三明院古墳	古墳	大字塔	古墳	半壊	N35°10′48.7″ E135°35′17.8″	4	19	近世・現代墓により削平。現代墓域に中近世の墓・五輪塔あり。
24	三宅谷古墳群 （17基）	古墳	大字塔 小字三宅谷	古墳		N35°11′12.4″ E135°39′10.3″	5	9	フェンス、ネットあり立入禁止。 林道から概観確認。
25	鳥居古墳群 （13基）	古墳	大字鳥居 小字床波	古墳		N35°10′32.3″ E135°39′01.9″	5	9	12は道路改修で破壊か。八幡神社への道付近盛り上がりあり。
26	のぼりお古墳	古墳	大字鳥居 小字のぼりお	古墳	完存	N35°10′27.7″ E135°38′48.6″	4	21?	ヘリポート設置により消滅。

No.	名　称	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　考
27	鳥居八幡遺跡	散布地、住居跡	大字鳥居	古墳	完存	N35°10′31.7″ E135°38′57.6″	4	21?	住居址不明。林道断面に黒色の砂泥層（包含層？）が露出。
28	八幡神社跡	寺院跡、神社跡、墓地	大字鳥居 小字			N35°10′29.1″ E135°39′01.6″	4	21	カードの位置がずれている。 神社跡西側に新規の古墳？あり。
29	藤原古墓	墓地	大字下 小字藤原			N35°10′01.4″ E135°38′59.5″	5	13	下地区藤原の北西右一氏のご教示。
30	折谷古墳群 （19基）	墓地	大字下 小字折谷	古墳		N35°09′59.2″ E135°38′22.4″	4	22	現代の墓地に五輪塔などあり、中近世の墓地との複合遺跡？
31	折谷東古墳群 （3基）	古墳	大字下 小字折谷	古墳	半壊	N35°09′58.9″ E135°38′31.2″	5	10	現代墓地の東隣接地一帯。
32	殿横遺跡	住居跡	大字下 小字岩元	古墳 ～奈良		N35°09′52.6″ E135°38′29.8″	4	22	橋上から遠景。
33	周山古墳群 （11基）	古墳	大字下 小字折谷	古墳	完存	N35°09′29.7″ E135°38′07.6″	4	22	1～4号墳は周山中学校北側に樹に囲われて保存。
34	祇園谷遺跡	散布地	大字下 小字祇園谷	奈良		N35°09′28.3″ E135°38′18.1″	5	10	道路から西面を写真。
35	寺屋敷遺跡	墓地、寺院跡	大字沢尻	近世		N35°12′53.9″ E135°37′40.6″	5	12	明石から谷筋へ。道標「是より朝日山」を由がる。
36	岩ヶ鼻古墳群 （5基）	古墳	大字上弓削 小字岩ヶ鼻	古墳		N35°12′33.1″ E135°38′32.2″	4	28	3～5号墳確認。東隣に墓域および平坦面あり。
37	笥江古墳群 （4基）	古墳	大字上弓削 小字岩ヶ鼻	古墳		N35°12′22.9″ E135°38′39.7″	4	28	4号墳の位置が地図とずれている。 (GPSは4号墳で測量)
38	笥江夏路古墳群（4基）	古墳	大字上弓削 小字夏路	古墳	半壊	N35°12′26.2″ E135°38′19.2″	4	26	盗掘坑あり。（1・2号墳）
39	弾正古墳群 （4基）	古墳	大字上中 小字弾正	古墳	完存	N35°12′18.2″ E135°38′22.0″	4	26	池あり。その南北丘陵に展開する。
40	八幡宮裏山古墳群（4基）	古墳	大字上中 小字宮の谷	古墳		N35°12′11.5″ E135°38′14.2″	4	26	2基は全半壊。
41	宮の谷遺跡	住居跡	大字上中 小字宮の谷		半壊	N35°12′13.9″ E135°38′09.8″	4	26	林道敷面に断面あり。3基あり。
42	宮の谷古墳群 （11基）	古墳	大字上中 小字宮の谷	古墳		N35°12′18.4″ E135°38′06.4″	4	26	宮の谷遺跡の林道先。
43	上中古墳群 （2基）	古墳	大字上中	古墳		N35°12′12.6″ E135°38′01.9″	4	26	近現代建物のよる造成土盛りか？
44	上中城 （田中）	城跡	大字上中			N35°11′56.0″ E135°38′17.4″	4	26	弓削国虎築城。土塁完存。
45	中道寺跡	寺院跡	大字上中			N35°12′13.7″ E135°38′35.4″	4	27	西方に2面の平坦地存在。 石垣、山砦いに残存。
46	中道寺塚	塚	大字上中			N35°12′05.5″ E135°38′38.8″	4	27	雑木と庭の影響で崩壊が進行。
47	福徳寺跡	寺院	大字下中 小字東大寺	平安		N35°11′37.5″ E135°38′26.3″	4	26	現在の墓地に五輪塔・集石あり、複合遺跡か？
48	上中太田遺跡	集落跡	大字上中 小字城	弥生 ～奈良		N35°11′58.8″ E135°38′16.9″	4	26	範囲拡大。1996年調査報告による。
49	上中遺跡	住居	大字上弓削 小字沢ノ奥	弥生 ～鎌倉		N35°11′43.6″ E135°38′02.2″	4	27	北桑田高校敷地と周辺。
50	鳥谷古墳群 （10基）	古墳	大字上中他 小字鳥谷	古墳		N35°11′59.5″ E135°37′38.7″	4	27	確認できず。道路拡幅・造成地により破壊されている可能性。
51	ふくがなる古墳群（2基）	古墳	大字下弓削 小字ふくがなる	古墳		N35°11′55.8″ E135°37′27.5″	4	28	1号墳確認、天井石3石露出。
52	下弓削遺跡	散布地	大字下弓削 小字			N36°11′41.3″ E135°37′54.6″	4	27	場所特定不可。

No.	名　称	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　考
53	田貫古墳	古墳	大字田貫	古墳		N35°12′25.4″ E135°36′14.9″	4	27	1基増える可能性あり。 文献「京都府北桑田郡誌」
54	白山古墳	古墳	大字田貫	古墳		N35°12′23.1″ E135°36′27.0″	4	27	古墳の大木が倒壊。根の腐食が影響か。
55	田貫東古墳	古墳	大字田貫	古墳	半壊	N35°12′13.1″ E135°36′57.1″	4	28	盗掘、石露出。1基増か。
56	九門屋敷跡	屋敷	大字田貫 小字櫻見谷			N35°12′28.5″ E135°36′19.7″	4	27	近辺の道路沿いの民家附近を想定する説もあり。慈眼寺未寺。
57	下弓削銅鐸 出土地	銅鐸 出土地	大字下弓削	弥生			5	24	「下弓削発見の銅鐸」『京都府報告』第7冊
58	矢谷遺跡	散布地	大字下弓削	弥生	半壊	N35°11′25.5″ E135°37′36.5″	4	27	古墳群と重複している。
59	矢谷奥経塚	経塚	大字下弓削 小字矢谷奥	江戸		N35°11′26.3″ E135°37′39.3″	4	27	一字一石経。
60	矢谷古墳群 （13基）	古墳	大字下弓削	古墳		N35°11′35.5″ E135°37′28.5″	4	27	GPSは10号墳（岩が露出している）付近で測定。
61	矢谷奥遺跡	散布地	大字下弓削 小字矢谷			N35°11′15.1″ E135°37′27.7″	4	27	貯水池えん堤下一帯。
62	矢谷奥古墳群 （8基）	古墳	大字下弓削 小字矢谷奥	古墳		N35°11′14.5″ E135°37′27.8″	4	27	5号墳、石室露出。 林道に削られている。
63	井崎古墳	古墳	大字井崎	古墳	半壊	N35°11′14.5″ E135°37′15.4″	5	16	石材多数露出（970312調査）。
64	塩田古墳群 （3基）	古墳	大字塩田	古墳		N35°11′08.8″ E135°37′17.4″	5	16	新しい林道ができていて確認できず。
65	塩田口古墳群 （4基）	古墳	大字塩田	古墳		N35°11′08.4″ E135°37′30.3″	4	27	4号墳確認不可。1・3号墳も位置が異なる。
66	永林寺跡	寺院	大字塩田	中世		N35°10′56.1″ E135°37′38.0″	4	27	曹洞宗永林寺派。北東部の墓地に僧侶名を記した近世墓多数。
67	狭間谷古墳群 （2基）	古墳	大字下弓削 小字狭間谷	古墳	完存	N35°11′18.9″ E135°38′15.9″	4	26	西側の古墳は№68の中に位置する。
68	狭間谷遺跡	散布地	大字下弓削 小字狭間谷	縄文 ～古墳	半壊	N35°38′14.9″ E135°38′14.9″	4	26	№68の中に№67の古墳の一つが存在する。
69	狭間谷経塚	経塚	大字下弓削 小字狭間谷			N35°11′22.2″ E135°38′15.6″	4	26	現代墓地と重複しているか？
70	金屋経塚	経塚	大字下弓削 小字金屋			N35°11′09.1″ E135°38′11.6″	4	26	金屋団地造成により消滅。
71	しが田古墳群 （4基）	古墳	大字井崎 小字シガ田	古墳		N35°11′05.1″ E135°38′08.4″	4	26	3号古墳は宅地造成のため消滅。 4号古墳発見（半壊）。
72	井崎遺跡	散布地	大字井崎 小字シガ田	弥生		N35°11′05.4″ E135°38′07.4″	4	26	住宅地の南側。
73	五本松遺跡	散布地	大字五本松	縄文 ～江戸		N35°10′21.0″ E135°37′55.1″	4	25	フェンスあり。実見不可能。
74	五本松古墳	古墳	大字五本松	古墳	半壊	N35°10′38.3″ E135°37′35.3″	4	25	盗掘痕付近に石材2個あり。
75	出口古墳群 （7基）	古墳	大字五本松	古墳	半壊	N35°10′24.6″ E135°37′38.2″	4	25	GPS、遺構規模は1号墳のデータ。
76	五本松西遺跡	散布地、 住居跡	大字五本松	縄文 ～古墳		N35°10′19.0″ E135°37′38.5″	4	25	花大グランド造成で消滅。
77	奥堂遺跡	散布地、 寺院跡	大字五本松 小字奥堂	弥生、 近世		N35°10′06.9″ E135°37′54.0″	4	25	「奥の堂の観音さん」跡。 文献「光秀信仰の観音さん」
78	大年古墳群 （6基）	古墳	大字周山			N35°09′50.2″ E135°37′45.2″	4	25	現代墓地であるが、五輪塔などの存在から中近世墓域か？

No.	名　称	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　　考
79	宮坂古墳	古墳	大字周山	古墳	完存	N35°09′55.2″ E135°37′55.1″	4	25	古墳の下は林道造成中。
80	熊田古墳	古墳	大字熊田	古墳	完存	N35°10′47.7″ E135°36′49.9″	5	10	鹿フェンスあり。すぐ左道。地図の位置より西下方に古墳？
81	卯庵谷遺跡	散布地	大字周山 小字卯庵谷	弥生		N35°09′48.8″ E135°37′31.2″	4	25	水田（水が張られており現状撮影のみ）。
82	八津良城	城跡	大字周山	中世		N35°09′38.7″ E135°37′50.0″	4	25	想定地は杉林を伐採中で、崩壊が進む。
83	高梨遺跡	散布地	大字周山		全壊	N35°09′28.7″ E135°38′02.7″	5	10	グラウンド造成のため全壊。
84	周山慶寺跡	寺院跡	大字周山 小字中山	飛鳥奈良		N35°09′25.5″ E135°38′09.8″	4	25	丘陵地の平坦地に堂字を点々と配置。
85	高梨経塚 （1～3号）	経塚	大字周山 小字高梨		全壊	N35°09′26.9″ E135°38′03.6″	5	10	周山古墳群1・2号墳の近接地か？
86	慈眼寺経塚	経塚	大字周山 小字慈眼寺	江戸		N35°09′25.1″ E135°37′51.6″	4	26	山腹ではなく、境内の鐘楼の隣り。
87	周山経塚	経塚	大字周山 小字明ヶ市		全壊	N35°09′01.3″ E135°37′57.6″	4	28	S62.3に経塚共同墓地の記念碑あり。
88	周山城跡	城跡	大字周山	中世	半壊	N35°09′24.5″ E135°37′21.8″	11	9	崩壊は少しずつ進行（枠に石垣）－杉根のため。
89	東山遺跡	散布地	大字周山 上ヶ市	縄文 ～中世		N35°09′12.8″ E135°38′07.5″	4	25	五輪塔石仏など多数。墓地の西南隅に山積み。
90	周山窯跡群 （1～4号窯）	窯跡	大字周山 小字上ノ段	飛鳥奈良		N35°08′53.6″ E135°37′58.9″	4	28	府指定史跡。瓦陶兼用窯。
91	小栗尾経塚	経塚	大字周山 小字栗尾	江戸		N35°08′49.8″ E135°38′18.1″	4	28	石仏・五輪塔などが認められる。中世墓地の可能性。
92	井崎南遺跡	散布地	大字井崎 小字しが田			未確認	5	11	遺跡地図にのっているが、カードなし。
93	御殿山遺跡	屋敷	大字細野 小字御殿山	江戸		N35°07′30.0″ E135°37′47.9″	4	28	旧細川領主二条関白屋敷。礎石などあり。
94	長野古墳群 （2基）	古墳	大字長野 小字大神宮社裏	古墳		N35°07′17.7″ E135°36′28.8″	5	12	3基の可能性あり。
95	栃本遺跡	散布地	大字栃本	縄文		N35°08′25.4″ E135°36′39.4″	4	28	範囲が広く概略的範囲のみ。
96	宇津遺跡	散布地	大字中地 小字蛸谷口	弥生		N35°08′22.7″ E135°35′35.2″	4	28	学校跡地の山の手。
97	宇津城跡	城跡	宇津 栗生谷	戦国	半壊	N35°08′52.3″ E135°34′47.0″	11	7	調査図より、崩壊すすむ。階段・石垣－崩れている。
98	貞任首塚遺跡	塚	大字下宇津	平安		N35°08′37.0″ E135°34′02.0″	5	19	安倍貞任の首塚を伝える。祠跡は近年改修。
99	宇津城山城跡	城跡	大字下宇津 小字下浮井	戦国	完存	N35°08′58.3″ E135°33′33.4″	11	8	杉林で崩壊が進行するおそれあり。
100	井崎寺跡	散布地、 住居跡、 寺院跡	大字井崎 小字しが田		半壊	N35°10′54.8″ E135°38′02.7″	4	26	寺院と伝えられる平坦面に造成された場所あり。
101	大年窯跡	散布地	大字周山 小字大年	平安	全壊	N35°10′48.4″ E135°38′04.2″	4	26	詳細不明。

表4　京北分布調査表

No.	名称（仮）	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　　考
K1	芹生墓域	墓地	大字芹生 小字芹生	中・近世	半壊	N35°09′59.7″ E135°45′22.6″	4	19	芹生旧集落跡とされる。 聖徳寺跡があったという。
K2	源蔵屋敷跡	屋敷跡	大字芹生 小字芹生	平安	半壊	N35°09′45.6″ E135°45′10.0″	4	19	祠の裏一武部源蔵の寺子屋「源蔵屋敷」。
K3	芹生分教場跡	墓地、 寺院跡	大字芹生 小字芹生	中・近世	残存	N35°09′33.2″ E135°45′11.4″	4	19	現在の聖徳寺の隣接地。
K4	灰屋石仏	石仏	大字灰屋	中・近世	残存	N35°10′37.2″ E135°44′24.1″	4	19	灰屋と芹生の境附近にあり、道標的性格か？
K5	吉野橋北石仏集積地	墓地	大字上黒田 小字吉野	近世	残存	N35°12′28.4″ E135°44′11.1″	4	19	石仏・地蔵・五輪塔などあり、附近に寺・墓地あり？
K6	中江石仏集積地	供養塔	大字中江	近世～	残存	N35°11′00.3″ E135°40′22.3″	5	9	地蔵多数（文政12年銘あり）。五輪塔10基前後。
K7	殿村八丁	集落	大字小塩 上ノ町	近世～	完存	N35°15′06.8″ E135°42′39.9″	11	17	住居跡、神社などセット。防水対策と思われる基壇。
K8	卒塔婆峠石仏	石仏	大字小塩 上ノ町	近世	完存	N35°14′41.0″ E135°43′42.9″	11	17	やや傾きを持つ平坦面があるが、寺跡とは断定できない。
K9	祖父谷峠石塔	石塔	大字井戸 小字井戸	近世	残存	N35°09′57.4″ E135°42′44.4″	12	2	石塔１基。約80cm×30cm。 寛政八辰年　念佛六百万遍等。
K10	石仏峠石仏	石仏	大字井戸 小字井戸	中世～	残存	N35°10′14.2″ E135°43′27.3″	11	16	約100m井戸方面へ下がった所に石仏２体。石で基壇をつくる。
K11	茶呑峠石仏	石仏	大字山国 小字中江	近世？	完存	N35°09′41.4″ E135°40′28.9″	11	21	地蔵菩薩一江戸中期？「京の石仏」。杖は欠損。
K12	鳴ノ堂跡	御堂	大字山国 小字中江	～近世	半壊	N35°10′00.5″ E135°39′57.6″	11	21	基壇。20m×20m。 建物３間×４間以上。柱間1.5m。
K13	茶屋跡	石仏、塔、 基壇状石置	大字山国 小字下	近世？	完存	N35°07′30.5″ E135°37′47.5″	12	5	寛政期の年号。 石垣で約８m×４mを囲む。
K14	細川頼之屋敷	屋敷	大字岡山 小字下	中世？	半壊	N35°10′11.2″ E135°38′34.5″	11	30	石囲い状の遺構がある。 ゆるい斜面を削平して盛土。
K15	深見峠石仏	石仏	上弓削	近世	完存	N35°15′14.2″ E135°38′11.9″	11	14	峠の率塔婆峠方面への林道北側に石仏あり。
K16	荒倉寺跡	御堂	大字上弓削 小字十一	近世？	半壊	N35°13′38.1″ E135°38′27.7″	11	28	平坦地３面。２ヶ所に石垣がある。
K17	赤石奥窯跡	炭焼窯	大字上弓削 小字赤石	近世	半壊	N35°13′11.9″ E135°37′37.2″	5	16	炭焼窯と思われる。
K18	朝日寺跡	寺院跡	大字上弓削 小字沢尻	中世	半壊	N35°12′54.2″ E135°37′49.8″	11	18	石垣、基壇２ヶ所、四角形石囲い、U字形石組、礎石あり。
K19	中道寺墓地	墓地	大字上中	中世～	残存	N35°12′07.4″ E135°38′39.4″	4	27	現代墓地の複数ヶ所にあり。
K20	井崎祠	祠	大字井崎 小字大年	近世	完存	N35°10′41.2″ E135°38′03.1″	5	11	「安政六年未三月口」の銘あり。
K21	あやめ塚	塚	大字矢代中	中世～	半壊	N35°10′52.8″ E135°36′03.6″	5	30	附近に寺院あり。
K22	矢谷奥墓域	墓地	大字下弓削 小字矢谷奥	中・近世	残存	N35°11′15.6″ E135°37′34.1″	4	27	五輪塔などが現墓地に散在。
K23	矢谷奥御堂跡	寺院跡	大字下弓削 小字矢谷奥	中・近世	残存	N35°11′26.3″ E135°37′39.1″	4	27	遺跡地図記載の経塚の北隣に基壇状高まり。
K24	矢谷上橋北墓域	墓域	大字下弓削 小字矢谷？	近世	残存	N35°11′19.1″ E135°37′48.9″	4	27	現在墓地が北に隣接している。
K25	岡江墓域	墓地	大字上弓削 小字岩ヶ鼻	中世～	残存	N35°12′24.8″ E135°38′37.8″	4	28	現代墓に中・近世墓地が複合する。
K26	岩ヶ鼻墓域	墓地	大字上弓削 小字岩ヶ鼻	中世～	残存	N35°12′32.1″ E135°38′32.1″	4	28	中近世の五輪塔、宝篋印塔など石材。

No.	名称（仮）	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　　考
K27	五本松塚	経塚	大字五本松 小字下弓削	中世～	完存	N35°10′13.1″ E135°37′45.2″	5	23	常照皇寺の近辺にも類似の経塚あり。
K28	人尾峠石仏	供養塔	大字下宇津 小字下浮井	近世？	完存	N35°09′07.2″ E135°33′38.6″	11	10	貞任首塚と同一性格のもの。日吉町との境。
K29 ①	細野城推定地 ①（ダイラ）	城跡？	大字細野 小字上	戦国	残存	N35°07′20.5″ E135°38′20.3″	12	8	平坦地の最終利用は地元の人の話では田跡という。
K29 ②	細野城推定地 ②（峰寺）	城跡？	大字細野 小字下	戦国	未確		12	12	寺跡といわれているが、地元の方は城の可能性を示唆。
K29 ③	細野城推定地 ③（御殿山）	城跡？	大字細野 小字中	戦国	残存	N35°07′30.0″ E135°37′47.9″	12	15	御殿山が城の後地利用（二条家屋敷）の可能性あり。
K30	小栗尾峠 石造物	塔	大字周山 小字栗尾	近世？	完存	N35°08′40.4″ E135°38′22.3″	11	24	地蔵本体1.0m。石仏全体1.7m。 「享保五庚子歳」銘あり。
K31	大栗尾峠御堂	御堂等	大字細野 小字中	近世？	残存	N35°08′24.6″ E135°38′28.1″	11	24	石碑－弘法大師堂　茶所－山全了沙弥　発起　－魚塚岸沙弥。
K32	首無地蔵峠 石仏	石仏	大字細野 小字上	近世？	残存	N35°04′20.2″ E135°38′33.5″	11	29	地蔵１体－首無し－座像。 他１体－40cm×20cm－立像。
K33	田尻廃村	集落	大字細野 小字田尻	近世～	残存	N35°05′53.2″ E135°38′57.0″	11	28	石碑－田尻彦之命　春子姫之命。 石垣囲いの敷地が複数残る。
K34	細野墓城	墓地	大字細野 小字上	近世	残存	N35°07′17.5″ E135°36′28.2″	5	12	近辺にも数ヶ所石仏あり。 附近に寺院があったという。

表5　道路部分調査表

名　称	No.	種類	所　在	時代	現状	緯度・経度	調査日		備　考
道路1 佐々江京北線	1	墓地	大字五本松	古墳	半壊	N35°10′24.3″ E135°37′23.0″	5	11	No.75出口古墳群の南限にあたる。
道路1 佐々江京北線	2		大字五本松			N35°10′20.3″ E135°37′10.3″	5	11	周知の遺跡には該当しない。 山地を削り出して道路あり。
道路1 佐々江京北線	3		大字熊田			N35°10′20.5″ E135°37′03.2″	5	11	周知の遺跡には該当しない。 南側は谷地形、北側は山地。
道路1 佐々江京北線	4		大字熊田			N35°10′20.8″ E135°36′53.3″	5	11	周知の遺跡には該当しない。 北側は山地、南側は谷筋。
道路1 佐々江京北線	5		大字熊田			N35°10′20.8″ E135°36′53.3″	5	11	熊田バス停付近。
道路2 卯滝・下熊田	1		大字下熊田			N35°10′02.9″ E135°36′29.7″	5	11	西側は山地。 東方向は水田集落方向。
道路2 卯滝・下熊田	2		大字下熊田			N35°09′59.7″ E135°36′35.1″	5	11	周知の遺跡には該当しない。 南側は谷地形。
道路2 卯滝・下熊田	3		大字下熊田			N35°09′56.6″ E135°37′02.5″	5	11	周知の遺跡には該当しない。 北側・南側共に山地。
道路2 卯滝・下熊田	4		大字周山			N35°09′51.6″ E135°37′19.8″	5	11	東側方向に水田が広がる。
道路2 卯滝・下熊田	5	散布地	大字周山	弥生		N35°09′48.5″ E135°37′31.0″	5	11	弥生時代中期の遺物散布地。
道路2 卯滝・下熊田	6		大字周山			N35°09′47.5″ E135°37′49.2″	5	11	
道路3－1 バイパス予定地	1		大字栗尾			N35°08′38.6″ E135°38′46.4″	5	16	林道入口部。北側は山地、裾部には岩盤露出。
道路3－1 バイパス予定地	2		大字栗尾			N35°08′37.5″ E135°38′47.7″	5	16	林道。北側は山地、裾部には岩盤露出。
道路3－1 バイパス予定地	3		大字栗尾			N35°08′37.0″ E135°38′56.4″	5	16	No.3-3地点は林道分岐点の手前までとした。
道路3－2 バイパス予定地	1		大字細野			N35°07′23.0″ E135°38′48.3″	5	17	国道162号との交点付近。
道路3－2 バイパス予定地	2		大字細野			N35°07′25.4″ E135°38′48.0″	5	17	北上40mに石仏・宝篋印塔・五輪塔あり。
道路3－2 バイパス予定地	3		大字細野 （三差路）			N35°07′31.1″ E135°38′47.7″	5	17	北上50m東側に墓（江戸安政期）。 北上70m山田谷川対岸に墓。
道路3－2 バイパス予定地	4		大字細野 （橋の上）			N35°07′37.1″ E135°38′51.0″	5	17	橋の南20mに祠あり。
道路3－2 バイパス予定地	5		大字細野			N35°07′31.4″ E135°38′42.7″	5	17	北側は山地である。 南側は水田である。
道路3－2 バイパス予定地	6		大字細野 （石碑前）			N35°07′29.2″ E135°38′38.0″	5	17	北側は山地である。 南側は水田である。
道路3－2 バイパス予定地	7		大字細野 （水田）			N35°07′22.9″ E135°38′47.7″	5	17	周囲は水田である。
道路3－2 バイパス予定地	8		大字細野 （水田）			N35°07′27.6″ E135°38′46.6″	5	17	周囲は水田である。
道路3－2 バイパス予定地	9		大字細野			N35°07′29.2″ E135°38′44.8″	5	17	細野川支流の交差点。

表6　右京区京北埋蔵文化財関係目録

No.		名　称	編著者名他	題　名	所載誌名	番号	発行機関	発行年
1		宮城跡	京北町文化財を守る会	稲荷山と矢々瀬	続京北の昔がたり		京北町文化財を守る会	1988
2		平井谷城館						
3		塚谷遺跡						
4		祖父谷古墳群（3基）						
5		霊願寺跡						
6		馬塚遺跡						
7		常照皇寺経塚	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
8		野上古墳						
9		長池古墳群（7基）						
10		中江城	—	—	日本城郭全集	8	人物往来社	1967
11		中江古墳群（32基）						
12		大野古墳群（7基）						
13		大野西古墳						
14		最玄寺経塚						
15		六ヶ遺跡						
16		比賀江古墳群（5基）						
17		院谷古墳群（4基）						
18		院谷遺跡						
19	1	塔遺跡	—	—	京都府遺跡調査概報	64	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1995
19	2	塔遺跡	—	—	埋蔵文化財発掘調査概要	1996	京都府教育委員会	1996
19	3	塔遺跡	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1997	京都府教育委員会	1997
20	1	塔村古墳群（2基）	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
20	2	塔村古墳群（2基）	—	—	史想	15	日本教育大学考古学研究会	1970
20	3	塔村古墳群（2基）	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1979	京都府教育委員会	1979
21		塔城						
22		愛宕山古墳群（6基）	奥村清一郎	愛宕山古墳発掘調査概報	京北町埋蔵文化財発掘調査報告書	2	京北町教育委員会	1983

No.		名　称	編著者名他	題　名	所載誌名	番号	発行機関	発行年
23		三明院古墳						
24		三宅谷古墳群（17基）						
25		鳥居古墳群（13基）						
26		のぼりお古墳	人魯亨	のぼりお古墳発掘調査概報	京北町埋蔵文化財発掘調査報告書	3	京北町教育委員会	1992
27		鳥居八幡遺跡						
28		八幡神社跡						
29	1	藤原古墓	—	—	京都考古	4	京都考古刊行会	1974
29	2	藤原古墓	—	—	京北町誌		京北町	1975
29	3	藤原古墓	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1979	京都府教育委員会	1979
30		折谷古墳群（19基）						
31		折谷東古墳群（3基）						
32	1	殿橋遺跡	景山春樹	京都府北桑田郡殿橋遺跡	日本考古学年報	7	日本考古学協会	1958
32	2	殿橋遺跡	—	—	京北町誌		京北町	1975
32	3	殿橋遺跡	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1979	京都府教育委員会	1979
33	1	周山古墳群（11基）	—	—	京北町誌		京北町	1975
33	2	周山古墳群（11基）	—	—	日本考古学年報	27	日本考古学協会	1976
33	3	周山古墳群（11基）	—	—	常設展資料	4	京都府立丹後郷土資料館	1978
34	1	祇園谷遺跡	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1992	京都府教育委員会	1992
34	2	祇園谷遺跡	谷口俊	八木城跡発掘調査概要	八木町文化財調査報告書	1	八木町教育委員会	1994
35		寺屋敷遺跡						
36		岩ヶ鼻古墳群（5基）						
37		筒江古墳群（4基）						
38		筒江夏路古墳群（4基）						
39		弾正古墳群（4基）	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
40		八幡宮裏山古墳群（4基）						
41		宮の谷遺跡						

No.		名　称	編著者名他	題　名	所載誌名	番号	発行機関	発行年
42		宮の谷古墳群（11基）						
43		上中古墳群（2基）						
44	1	上中城（田中）	—	—	日本城郭体系	11	新人物往来社	1980
44	2	上中城（田中）	人巻亨	上中城跡発掘調査概報	京北町埋蔵文化財発掘調査報告書	4	京北町教育委員会	1994
44	3	上中城（田中）	人巻亨	上中城跡第2次発掘調査概報	京北町埋蔵文化財発掘調査報告書	5	京北町教育委員会	1995
45		中道寺跡	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
46		中道寺塚						
47		福徳寺跡	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
48	1	上中太田遺跡	—	—	京都府遺跡調査概報	70	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1996
48	2	上中太田遺跡	人巻亨	上中太田遺跡発掘調査概報	京北町埋蔵文化財発掘調査報告書	6	京北町教育委員会	1996
49	1	上中遺跡	—	—	京都府埋蔵文化財情報	10	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1983
49	2	上中遺跡	—	—	京都府遺跡調査概報	27	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1988
49	3	上中遺跡	谷口彰	八木城跡発掘調査概要	八木町文化財調査報告書	1	八木町教育委員会	1994
50	1	鳥谷古墳群（10基）	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
50	2	鳥谷古墳群（10基）	—	—	京都府遺跡調査概報	82	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1998
51		ふくがなる古墳群（2基）	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
52		下弓削遺跡						
53		田貫古墳	—	—	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
54		白山古墳						
55		田貫東古墳						
56		九門屋敷跡	—	—	日本城郭体系	11	新人物往来社	1980
57		下弓削銅鐸出土地	中村孝行ほか	高谷古墳群発掘調査概要	綾部市文化財調査報告	1	綾部市教育委員会	1973
58		矢谷遺跡						
59		矢谷奥経塚						
60		矢谷古墳群（10基）						
61		矢谷奥遺跡						

No.		名　称	編著者名他	題　名	所載誌名	番号	発行機関	発行年
62		矢谷奥古墳群（8基）						
63		井崎古墳						
64		塩田古墳群（3基）						
65		塩田口古墳群（4基）						
66		永林寺跡	―	―	京都府史跡勝地調査会報告	4	京都府	1923
67		狭間谷古墳群（2基）						
68		狭間谷遺跡						
69		狭間谷経塚						
70		金屋経塚						
71		しが田古墳群（4基）						
72		井崎遺跡						
73		五本松遺跡						
74		五本松古墳						
75		出口古墳群（7基）						
76		五本松西遺跡						
77		奥堂遺跡	―	光秀信仰の観音さん	京北の昔がたり		京北町文化財を守る会	1986
78		大年古墳群（6基）						
79		宮坂古墳						
80		熊田古墳						
81		卵滝谷遺跡						
82		八津良城						
83		高梨遺跡						
84	1	周山廃寺跡	安井良三	周山廃寺の遺址と遺物	文化史学	1	文化史学会	1950
84	2	周山廃寺跡	石田茂作・三宅敏之	丹波国周山廃寺	考古学雑誌	45	日本考古学会	1959
84	3	周山廃寺跡	―	―	京北町誌		京北町	1975
85		高梨経塚（1～3号）						

No.		名　称	編著者名他	題　名	所載誌名	巻号	発行機関	発行年
86		熊殿寺経塚						
87	1	周山経塚	川原純一	京都府周山経塚	日本考古学年報	1	日本考古学協会	1951
87	2	周山経塚	川原純一	丹波周山経塚について	史迹と美術	223	史迹と美術同好会	1952
88	1	周山城跡	卯滝博	周山城址について	北桑時報	43･44		1956
88	2	周山城跡	—	—	京北町誌		京北町	1975
88	3	周山城跡	—	—	日本城郭体系	11	新人物往来社	1980
89	1	東山遺跡	—	—	京都府遺跡調査概報	92	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	2000
89	2	東山遺跡	—	—	京都府遺跡調査概報	99	(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター	2001
90	1	周山窯跡群（1～4号窯）	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1979	京都府教育委員会	1979
90	2	周山窯跡群（1～4号窯）	宇野隆夫・岡内三真ほか	—	丹波周山窯址		京都大学文学部考古学研究室	1982
90	3	周山窯跡群（1～4号窯）	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1982	京都府教育委員会	1982
91		小栗尾経塚						
92		井崎南遺跡	—	—	日本城郭体系	11	新人物往来社	1980
93		御殿山遺跡						
94		長野古墳群（2基）						
95		栃本遺跡						
96	1	宇津遺跡	—	—	日本考古学年報	25	日本考古学協会	1974
96	2	宇津遺跡	—	—	京北町誌		京北町	1975
96	3	宇津遺跡	—	—	埋蔵文化財発掘調査概報	1979	京都府教育委員会	1979
97	1	宇津城跡	卯滝博	周山城址について	北桑時報	43･44		1956
97	2	宇津城跡	—	—	京北町誌		京北町	1975
97	3	宇津城跡	—	—	日本城郭体系	11	新人物往来社	1980
98		真任首塚遺跡						
99		宇津森山城跡	—	—	日本城郭体系	11	新人物往来社	1980
100		井崎寺跡						
101		大年窯跡						

Ⅱ　左京区大原の遺跡分布調査

1．調査経過

今回の調査は、京都市左京区大原野村町での圃場整備事業に先だち、京都市埋蔵文化財調査センターの指導により実施した遺跡確認のための分布調査である。

調査地は京都盆地から北東の京都市左京区大原野村町に位置する。大原は鴨川の支流である高野川上流に開けた南北に細長い山間の小盆地で、東側には比叡山・比良山地、西側には北山山地が迫る。平安時代以来、比叡山延暦寺の影響のもと、別院である勝林院・三千院や建礼門院徳子の隠棲地として有名な寂光院などの寺院が次々と造営された。また、中央を貫流する高野川沿いの街道は古くから京都と若狭を結ぶ街道であり、京都への薪炭をはじめとする物資供給の里としても知られている。

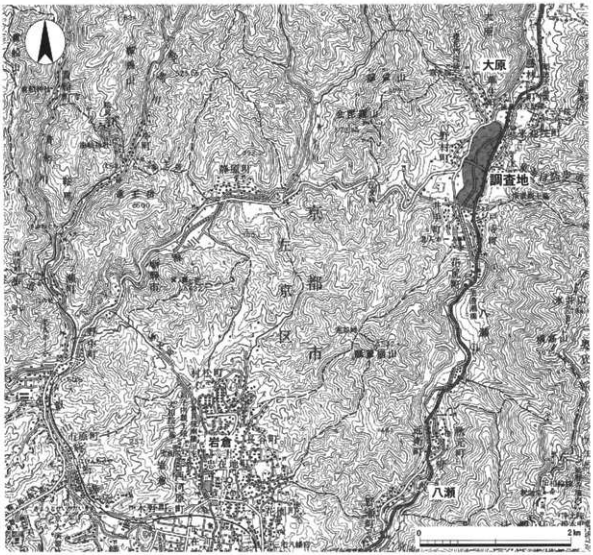


図20　調査位置図（1：50,000）

以上のような歴史的状況にあるものの大原における考古学的調査は少なく、平成12年度に（財）京都市埋蔵文化財研究所が実施した寂光院本堂再建に伴う発掘調査が唯一の例である。この調査では平安時代末期以前、平安時代末期から鎌倉時代、桃山時代末期から江戸時代初期の３時期の遺構を確認し、建礼門院徳子入山の時期にあたる平安時代末期から鎌倉時代にはそれ以前の建物を解体、整地していること、浄君による寂光院再興の時期にあたる桃山時代末期から江戸時代初期に本堂内陣建立のための「地鎮め」を行っていることなどが明らかとなった。また、土師器・瓦器・焼締陶器・中国製磁器などの遺物が出土している。大原の歴史的状況がうかがえる調査として評価できよう。今回の調査では考古学的な知見を広げることにより、新たな遺跡が発見できることが期待された。

調査地は大原の南部に位置しており、対象地は高野川両岸の南北約1200m、東西約300mの範囲である。大部分は山裾に向かって段状に構築された耕作地として利用されている。調査は主要府道下鴨・静原・大原線が高野川と直交する部分を境として、北部と南部に分割して実施した。藪や植林、耕作中の畑を除く部分を踏査し、畦や溝に囲まれた耕作地の区画を単位として遺物採集に努めた。遺物を採集した区画は北部ではN、南部ではＳを冠して通し番号を付した。また、調査にあたっては地元住民の皆様のご理解とご協力を得た。

２．分布調査

調査地は大部分が高野川が形成した段丘下部にあたる。全体としては高野川に沿って南に傾斜し、北端と南端では約15mの高低差がある。また、両岸は山裾から河床に向かって傾斜しており、高低差は３～６mある。斜面には石垣や土手を作り平坦面が形成され、多くは耕作地として利用されている。隣接する平坦面の段差が0.6～0.7mになる部分もある。平坦面は地形に沿って形成されているため、不整形な平面形をとる場合が多い。

調査では耕作地の区画を単位として遺物採集を行い、合わせて畦や溝、土手の斜面にも十分に注意を払った。耕作地の多くは作物の植え付けに向けて耕作土が掘り返された状態にあり、遺物採集には好条件であった。しかしながら、遺物は土器・陶器・磁器の小破片が極めて希薄に散布するのみであった。

遺物を採集できた地点は、北部で13箇所（Ｎ１～13）、南部で４箇所（Ｓ１～４）である。いずれも高野川右岸で左岸では遺物を採集することができなかった。北部では北西側山際の段丘崖上やそのすぐ下側の耕作地に遺物が分布することが確認できた。また、南部は北部よりさらに遺物の分布が希薄であったが、西側の段丘崖のすぐ下側の耕作地に遺物がまとまることを確認することができた。

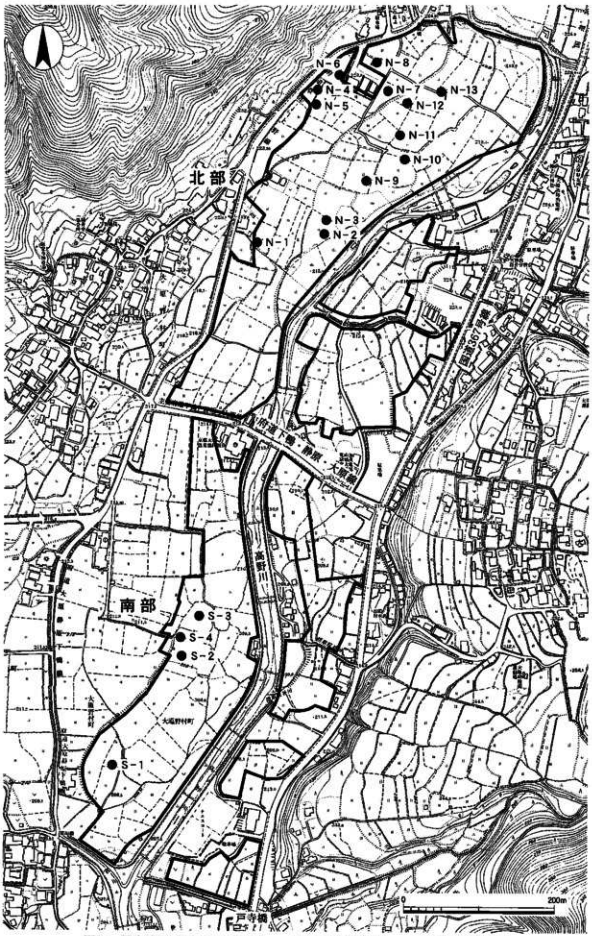


図21　調査地概要図（1：5,000）　太線：調査対象地　●：遺物採集地点

3．遺　物

採集した遺物はすべて細片である。内容は表7に示し、また、それらの中で実測が可能な遺物については図22に掲載した。

採集した遺物は土器と土製品がある。土器には土師器（1）・須恵器（2～5）・灰釉系陶器・焼締陶器・緑釉陶器（6）・施釉陶器・磁器（7・8）がある。また、土製品には土鈴・土人形があり、土人形は素焼きと磁器（9）に分類できる。

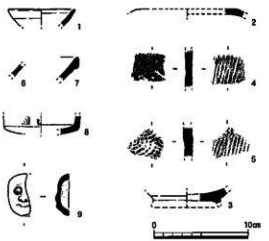


図22　遺物実測図（1：4）

（1）は白色系土師器小型皿である。底部は残存していないが、いわゆる「ヘソ皿」の可能性がある。口縁部外面下位はオサエののち横ナデ、内面・口縁部内外面は横ナデである。

（2）は須恵器杯蓋である。天井部外面は回転ケズリ、内面・口縁部内外面は横ナデである。

（3）は須恵器鉢の底部である。椀の可能性がある。高台は貼り付け高台で、底部は内外面とも横ナデである。

表7　採集遺物一覧表

採集地点	器種・器形	点数	時　期	備　考	実測図番号
N－1	須恵器　杯蓋	1	平安時代中期		2
N－2	土鈴	1	江戸時代		
N－3	磁器　椀	1	平安時代後期	中国産白磁	7
N－4	須恵器　甕	1	平安時代か	焼締陶器の可能性	
N－5	土師器　皿	2	室町時代	1点は白色系皿、 1点は赤色系皿で時期不明	
N－6	灰釉系陶器　椀	1	平安時代後期		
N－7	須恵器　鉢か	1	平安時代		3
N－8	磁器　椀	1	江戸時代	肥前産染付　絵付けあり	8
N－9	磁器　人形	1	江戸時代	型成形　顔面の破片	9
N－10	須恵器　甕	1	古墳時代から平安時代		5
N－11	施釉陶器　椀	1	江戸時代	絵付けあり	
N－12	土人形か	1	江戸時代		
N－13	須恵器　甕	1	平安時代か	焼締陶器の可能性	
S－1	土師器　皿	1	江戸時代か		
	磁器　皿	1	江戸時代	肥前産染付　絵付けあり	
S－2	土師器　皿	2	室町時代	1点は白色系皿、 1点は赤色系皿で時期不明	1
	須恵器　甕	1	古墳時代から平安時代		4
	緑釉陶器　椀	1	平安時代前期から中期		6
S－3	土師器　皿	1	時期不明		
S－4	土師器　皿	1	室町時代	白色系皿	
	焼締陶器　壺	1	江戸時代	備前産小壺	

（4・5）は須恵器甕体部である。（4）は外面は平行タタキ、内面はオサエのちナデである。（5）の外面は平行タタキののち横ナデ、内面は同心円タタキである。ともに外面タタキの原体には浅く木目が浮き出ている。

（6）は緑釉陶器椀である。素地は須恵質である。内外面とも横ナデののち、施釉する。釉薬は濃緑色を呈する。

（7）は中国製白磁椀口縁部である。口縁端部は玉縁になる。内外面に厚く施釉しているため、調整は不明である。

（8）は肥前産染付椀である。口縁部は底部から強く屈曲して立ち上がる。内外面に呉須で文様を描いたのち、透明釉をかける。絵柄は不明である。

（9）は磁器製人形の顔面の破片である。おどけた表情の人物を表現する。型で整形しており、内面にはオサエの圧痕が顕著に残る。釉薬はかけておらず、眉のみ筆で描く。

すべてが細片であるため、明確に所属する時期を限定できる遺物は少ない。最も古い特徴を示す遺物は古墳時代の可能性がある須恵器甕体部（4・5）である。ただし、これは製作技法に時代的な変化がないためで、採集した他の遺物の時期と比較して平安時代に属すると考えるのが妥当であろう。全体としては江戸時代の遺物が多い傾向にある。しかしながら、平安時代中期から後期の遺物が北部・南部それぞれで採集できたことは注目できる。

4．まとめ

今回の調査では、遺物の分布は相対的に希薄であることが判明した。高野川左岸では遺物を採集できなかったが、これは高野川の蛇行により遺物包含層が浸食を受け、削られた可能性が考えられる。

その一方で、調査地の北部と南西部の高野川右岸の２箇所でややまとまって遺物を採集することができた。いずれも段丘崖上やそのすぐ下側の耕作地に位置する。こうした状況から採集遺物は高野川により流されてきたものではなく、右岸段丘上に立地する遺跡から転落してきた可能性が高いと考えられる。また、高野川の堆積作用により、より深い位置に遺跡が埋没している可能性も完全に否定することはできない。

採集できた遺物は少量にとどまるが、考古学的知見の乏しかった大原南部にも少なくとも平安時代中期から江戸時代の遺跡の存在が推定できることとなった意義は大きい。今回の分布調査の成果を基に、確認のための試掘調査などの方法で、より詳しく遺跡の状況を把握する必要があると考えられる。

註

（1）「寂光院跡」『平成12年度　京都市埋蔵文化財調査概要』（財）京都市埋蔵文化財研究所　2003年

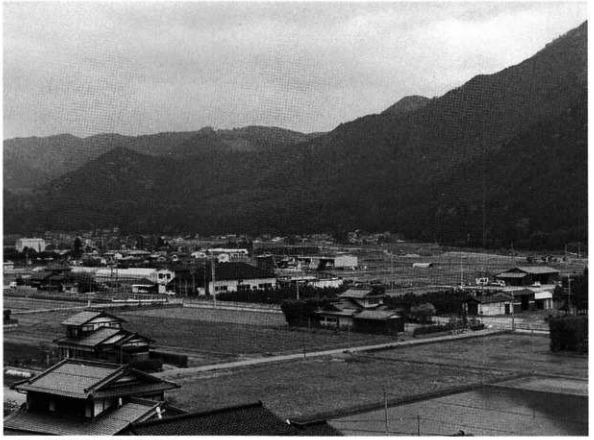
報告書抄録

ふ り が な	きょうとしないいせきぶんぷちょうさほうこく
書　　名	京都市内遺跡分布調査報告　平成17年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	加納敬二・津々池惣一・山本雅和
編 集 機 関	財団法人　京都市埋蔵文化財研究所
所　在　地	〒602-8435　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1　TEL 075-415-0521
発 行 機 関	京都市文化市民局
所　在　地	〒604-0925　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488　TEL 075-222-3108
発行年月日	西暦2006年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
右京区京北の遺跡	京都市右京区京北地先	26100				2005/４/１～2006/３/31		
左京区大原の遺跡	京都市左京区大原	26100				2005/４/19		圃場整備事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
右京区京北の遺跡		奈良時代 室町時代 ～江戸時代	御堂跡・墨書跡・経塚・集落跡・窯跡	土師器・須恵器・焼締陶器・陶磁器	
左京区大原の遺跡		平安時代 室町時代 江戸時代	遺物散布地	土師器・須恵器・緑釉陶器・磁器	

図　　版



1　上桂川流域全景（北から）

2　K1　芹生墓域（東から）

3　K2　源蔵屋敷跡（西から）

4　K3　芹生分教場跡（南から）

5　K4　灰屋石仏

1　K 5　吉野橋北石仏集積地

2　K 6　中江石仏集積地

3　K 7　廃村八丁

4　K 8　卒塔婆峠石仏

5　K 9　祖父谷峠石塔

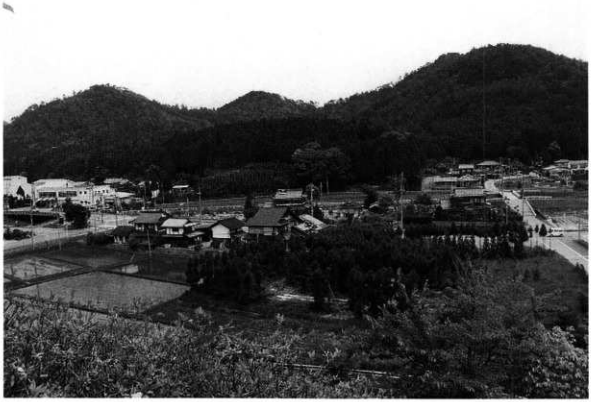
6　K10　石仏峠石仏

7　K11　茶呑峠石仏

8　K12　鳴ノ堂跡

1　K13　茶屋跡

2　K14　細川頼之屋敷



3　弓削川流域全景（東から）

4　K15　深見峠石仏

5　K16　荒倉寺跡

1　K17　赤石奥窯跡

2　K18　朝日寺跡

3　K19　中道寺墓地

4　K20　井崎祠

5　K21　あやめ塚

6　K22　矢谷奥墓城

7　K23　矢谷奥御堂跡

8　K24　矢谷上橋北墓城

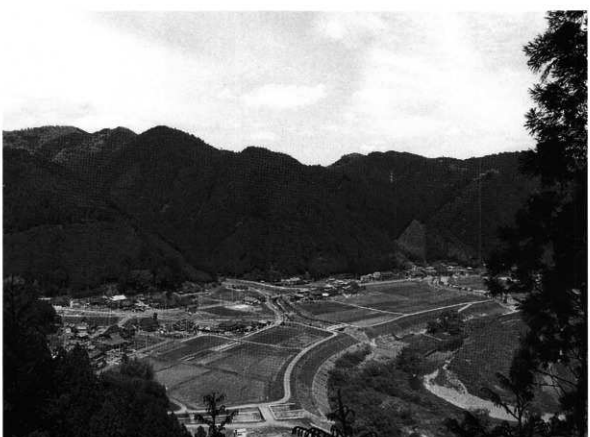
図版6　右京区京北の遺跡分布調査

1　K25　筒江墓域

2　K26　岩ヶ鼻墓域

3　K27　五本松塚

4　K28　五本松塚（遠景）



5　大堰川流域全景（西から）

1　K28　人尾峠石仏

2　K29　細野城推定地（御殿山）

3　K29　細野城推定地（ダイラ）

4　K30　小栗尾峠石造物

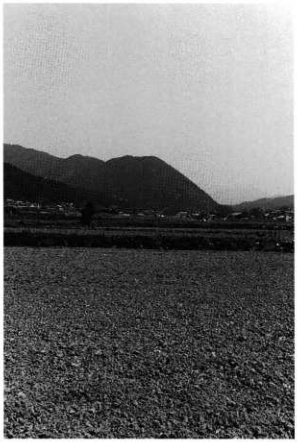
5　K31　大栗尾峠御堂

6　K32　首無地蔵峠石仏

7　K33　田尻廃村

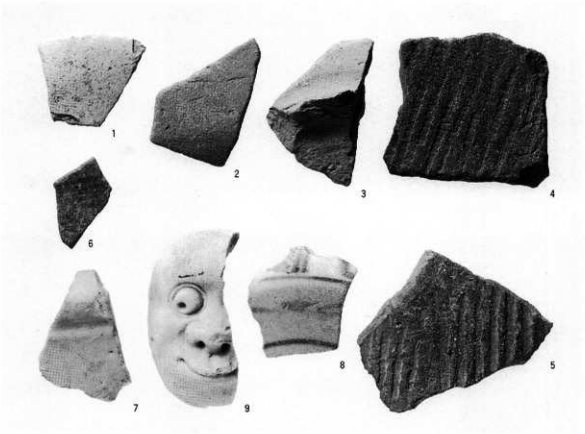
8　K34　細野墓域

図版8　左京区大原の遺跡分布調査



1　大原北部全景（南西から）

2　大原南部全景（北東から）



3　遺　物

京都市内遺跡分布調査報告

平成17年度

発行日　2006年3月31日

発　行　京都市文化市民局

住　所　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488

編　集　(財)京都市埋蔵文化財研究所

住　所　京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265-1

〒602-8435　TEL 075-415-0521

http://www.kyoto-arc.or.jp/

印　刷　真　陽　社